



新日本空調 SNKLポート2015

SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES SNK Report 2015



空気・信頼そして未来、 見えないものを大切にします。

✈ 企業理念

新日本空調株式会社(以下「新日本空調」と称す)は、2008年1月に「企業理念」を制定しました。

1. 空気・水・熱に関する技術の研究と開発を通して、地球環境に配慮した環境設備企業であり続けます。
2. 顧客・株主・職員・協力会社をはじめ、すべての人々との信頼関係を大切にします。
3. 「良き企業市民」として、社会の発展に貢献します。
4. 公正、透明、自由な競争を基本に、開かれた企業活動を行います。

✈ 経営の基本方針

新日本空調グループは、
「豊かな環境の創造」
「人々との信頼関係の尊重」
「社会への貢献」を
経営の基本として掲げ、活動しています。

✈ 会社力 要諦十項

- ・ 随処作主の一丸体制
夫々の当事者意識と組織
(三位一体⇒チームSNK)活動の融合
- ・ 顧客目線の迅速対応
- ・ 変化への鋭敏対応
- ・ 人間力こそ会社力
- ・ 小さな本社
- ・ 前線第一主義
りょうにゆうせいしゆつ
- ・ 量入制出
ち こうごう いてつ
- ・ 知行合一
こんたんりよく
- ・ 根胆力
根拠を踏まえた胆力
(戦略・覚悟・決断・実行←リーダーの心得)
- ・ 安全第一・健康第一

✈ 企業行動憲章

新日本空調グループは、
ステークホルダー(顧客・株主・職員・協力会社等)に対する
CSR(Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任)への
取り組み姿勢を明確に打ち出し、以下のとおり企業行動憲章を制定しています。

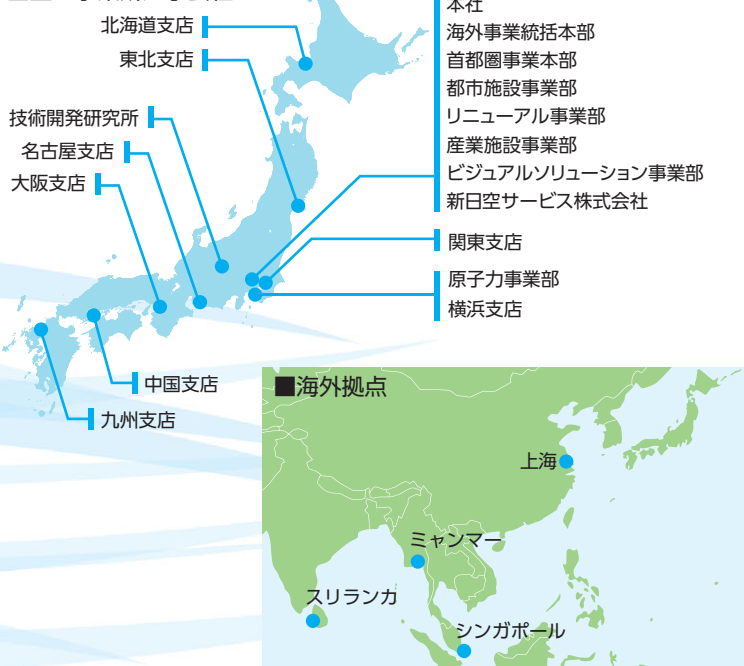
1. 空気を中核とする熱・水技術の研究と開発に努め、環境創造分野に新たな価値を創り出し、社会的に信頼される技術とサービスを提供します。
2. 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を基本に、開かれた企業づくりに努めます。
3. 株主はもとより、社会とのコミュニケーションを緊密に行い、積極的かつ公正な企業経営を目指します。
4. 環境に調和する技術の研究・開発を通して、地球規模の環境保全に貢献します。
5. 「良き企業市民」として、社会貢献活動を行います。
6. 労使相互信頼を基本に、職員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、希望に溢れた企業風土を創ります。
7. 反社会的勢力との関係遮断を断固たる決意で臨み、順法意識の確立と健全な企業風土を醸成します。
8. 海外においては、国際ルールや現地の法律順守はもとより、その文化や慣習を尊重し、その発展に貢献します。
9. 本行動憲章の役割を深く認識し、関係者に周知、徹底するとともに、当社グループ内の取り組み体制を整備し、企業倫理の徹底を図ります。
10. 緊急事態発生時の社内即応体制を確立するとともに、社内外への迅速な情報公開と説明責任を明確にします。

企業理念、経営の基本方針、企業行動憲章 02
 会社概要、目次 03
 トップコミットメント 04
 中期経営計画 05
 2014年度業務成績 06
 組織概要(組織図、役員・執行役員、事業所所在地) 08
 新日本空調の歴史 10

会社概要

商号	新日本空調株式会社 Shin Nippon Air Technologies Co., Ltd.
代表者	代表取締役社長 夏井博史
設立	1969年10月1日
本社	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル
資本金	51億5,860万円(2015年3月31日現在)
事業内容	空気調和、冷暖房、換気、給排水、衛生設備等の設計、 監理ならびに工事請負
建設業許可	国土交通大臣許可(特-26)第2716号 管工事業、機械器具設置工事業、建築工事業、電気工事業 国土交通大臣許可(特-27)第2716号 塗装工事業、防水工事業 国土交通大臣許可(般-26)第2716号 消防施設工事業
一級建築士事務所	東京都知事登録第13767号
従業員数	連結1,351名、単体996名 (有価証券報告書ベース、2015年3月31日現在)
株式の状況	発行可能な株式総数 84,252,100株 発行済み株式の総数 25,282,225株 株主数 5,165名(2015年3月31日現在)

■主な事業所/子会社



企業活動

■基本姿勢と透明性
 CSR、BCP、コーポレート・ガバナンス 12
 コンプライアンス、内部統制、情報セキュリティ 14

■トピックス
 SNK e-Labo 開設特集 16

■当社保有の技術紹介
 当社の保有技術 20

セグメント紹介

オフィス、データセンター、商業・文化施設 22
 ホテル、学校、病院 24
 工場、研究所 26
 エネルギープラント、地域冷暖房 28
 リニューアル、メンテナンス 30
 海外 32

安全・品質・環境マネジメント

マネジメントシステムの概要、技術方針 34
 環境活動 35
 安全・品質・環境活動 36
 最新施工事例 38

身近な空調のはなし 42

ステークホルダーとの対話

人権・制度・人材育成・職場環境 44
 コミュニケーション 46
 社会貢献活動 48
 事業部紹介～首都圏事業本部 産業施設事業部～ 50
 学会賞 過去の受賞実績紹介 52
 社外ステークホルダーインタビュー
 鉄道博物館 大信田 尚樹 館長 54

地球環境を先導すべく、環境ソリューションカンパニーとして、顧客ニーズに的確に応えた

「SNK品質」の深化と進化で真価を極める

はじめに

昭和5年(西暦1930年)に当社の前身である「東洋キヤリア工業」が誕生して以来、「技術のキヤリア」との呼び声が高く世界を席卷した高い技術とパイオニア精神は今なお受け継がれております。

空調を核としつつ設備全般に取り組むエンジニアリング会社である当社の技術を支えるのは「人」であり、職員の「人間力」です。「専門性」と「人間性」の二つを合わせ持つこそ「なくてはならない人」でありその職員の総和が「なくてはならない会社」と考えます。当社は、この「人間力」を以て、顧客ニーズを的確に捉えた「SNK品質」の深化と進化で真価を極め、「顧客満足度」において他社の追随を許さない環境ソリューションカンパニーを目指します。

2014年度の総括

2014年度は、4月の消費増税の駆け込み需要の反動で、もたつきがあったものの、金融緩和策の追加や、個人消費の回復が見られたほか、製造業においては、原油安のプラス効果で企業収益も回復基調となり、総じて底堅く推移しました。建設業界におきましても、民間設備投資の緩やかな回復、東京オリンピック・パラリンピック関連に代表される建設市況の活性化などの明るい材料がある一方で、施工人員の不足やそれに伴う工期遅延、また建設資機材の高騰などが現実的な課題となってまいりました。

このような状況下において当社実績は、受注工事高1,008億4千万円(前期比8.2%増)、完成工事高865億8百万円(前期比6.0%減)、繰越工事高642億5千2百万円(前期比28.7%増)となりました。利益面におきましては、営業利益21億4千2百万円(前期比4.1%減)、経常利益25億6千7百万円(前期比2.1%増)、当期純利益14億4千2百万円(前期比7.7%増)という結果となりました。

即ち、受注工事高において5期連続の増となり、2008年3月以来7期ぶりの1,000億円の大台に復活することができました。繰越工事高は5期連続の増を続け、2004年3月期以来11期ぶりの600億円台であり、当期純利益は4期連続の増となりました。2014年度は、完成工事高を除く三つの項目において前期を上回る「増の三冠」を達成することができました。



代表取締役社長

夏井 博史

夏井 博史

2015年度以降の経営計画

2015年度、当社を取り巻く環境として、引き続き東京オリンピック・パラリンピック関連のインフラ事業を始め、建設市況の活性化、製造業の国内回帰などが期待され、建設投資は活発になることが見込まれます。一方、建設業界の構造的な問題でもある施工人員不足、技術者不足が中長期的な課題となっております。人員リソースの確保と適切な配分、プレハブ化、ユニット化を始めとする生産性の向上、並びに前倒し工法等様々な施策による工期遅延対策は最も重要な課題であり、引き続きその解決に積極的に取り組んでまいります。このような状況下で、中期経営計画の2年目に当たる2015年度は、「究極真価プラン2016」(2014～2016年度)の基本課題『顧客信頼度の究極真価』、『技術の継承と先進技術の訴求展開』、『コーポレートガバナンスの強化と機動力のある組織体制』の三つの基本課題を推し進め、社会貢献と企業価値の向上を目指すと共に、業績向上に注力する所存であります。

定量計画としましては、受注工事高1,050億円、完成工事高1,000億円とし、損益計画は、営業利益29億円、経常利益31億円、当期純利益は17億円とします。

配当につきましては、株主の皆さまに安定的かつ継続的に成果の還元を行うことを経営の重要課題と考えており、年間20円を基本配当としながらも、業績、計画の達成度に応じて成果を特別配当の形で実施する予定です。

中期経営計画

「究極真価プラン2016」(2014年度～2016年度)

■基本方針

地球環境を先導すべく、環境ソリューションカンパニーとして、顧客ニーズに的確に応えた「SNK品質」の深化と進化で真価を極める

■定性計画

1. 顧客信頼度の究極真価

- ①ワンストップソリューションの体制推進
- ②アジアを拠点としたグローバル戦略の推進
- ③リソースの大胆な傾斜配分

2. 技術の継承と先進技術の訴求展開

- ①培った技術の継承と高度化推進
- ②顧客ニーズ、事業ニーズに基づく技術開発の強化

3. コーポレートガバナンスの強化と機動力のある組織体制

- ①コーポレートガバナンス、コンプライアンスの強化
- ②機動力のある組織体制

(定量計画)

(単位:百万円)

	2014年度 計画	2014年度 実績	2015年度 計画	2016年度 計画
受注高	100,000	100,840	105,000	112,000
完工高	95,000	86,508	100,000	106,000
当期純利益	1,500	1,442	1,700	2,000

2014年度業務成績

新日本空調グループは、中期経営計画「究極真価プラン2016」初年度において基本課題を推し進めた結果、受注工事高、繰越工事高、利益の三つの項目で前年実績を上回る「増の三冠」を達成しました。

2014年度におけるわが国経済は、4月の消費税の駆け込み需要の反動で、もたつきがあったものの、政府日銀による金融緩和策の追加や、徐々に個人消費の回復が見られたほか、製造業においては、原油安のプラス効果で企業収益も回復基調となり、総じて底堅く推移しました。

建設業界におきましても、民間設備投資の緩やかな回復、東京オリンピック・パラリンピック関連に代表される建設市況の活性化などの明るい材料がある一方で、施工人員の不足やそれに伴う工期遅延、また建設資機材の高騰などが現実的な課題となってまいりました。

このような環境下、当社グループは、中期経営計画である「究極真価プラン2016」(2014～2016年度)初年度において、「顧客ニーズに応えたSNK品質の深化と進化で真価を極める」をキーワードとし、①顧客信頼度の究極真価、②技術の継承と先進技術の訴求展開、③コーポレートガバナンスの強化と機動力のある組織体制の基本課題を推し進めてまいりました。

その初年度である2014年度の受注活動におきましては、大きく変化し始めた受注環境を注視しつつ、従来から取り組んでまいりました質と量、すなわち採算性とボリュームのバランスを見極めた活動を推進した結果、受注工事高は前期比8.2%増の1,008億4千万円となり、公表値の1,000億円を達成し、大台を回復いたしました。

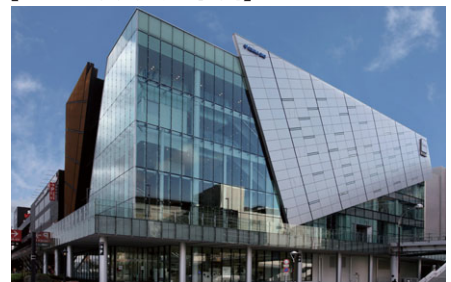
完成工事高につきましては、工期遅延による完成工事高の来期への持ち越し、指名停止・営業停止の影響などにより前期比6.0%減の865億8百万円となり、公表値950億円の達成には至りませんでした。一方で手持工事量は大幅に増加し、グループ全体の次期繰越工事高は143億3千2百万円増の642億5千2百万円となりました。

利益面におきましては、完成工事高減少の影響は受けたものの、それを最少化すべく原価低減による利益の創出と固定費削減努力を徹底して行いました。その結果、完成工事総利益は前期比0.4%減の83億3千4百万円、営業利益は前期比4.1%減の21億4千2百万円、経常利益は前期比2.1%増の25億6千7百万円となりました。

また、特別利益として6百万円、特別損失については1億5千2百万円を計上した結果、当期純利益は前期比7.7%増の14億4千2百万円となりました。

中期経営計画「究極真価プラン2016」(2014～2016年度)初年度において、工期遅延による来期への持ち越しや指名停止・営業停止の影響などにより完成工事高は減少となりましたが、受注工事高、繰越工事高、利益の三つの項目で前年実績を上回る「増の三冠」を達成しました。

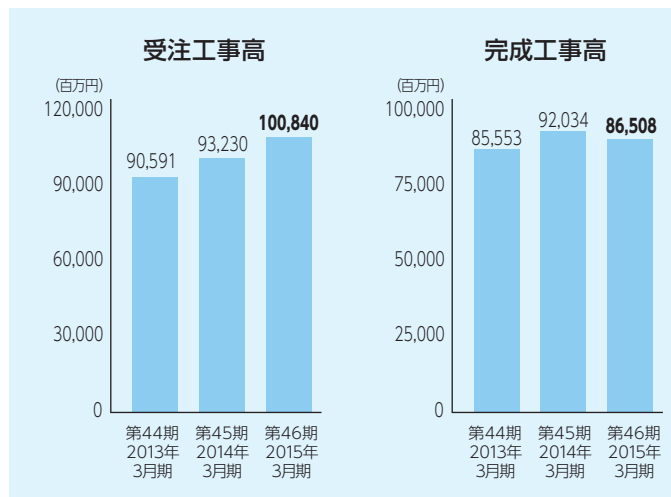
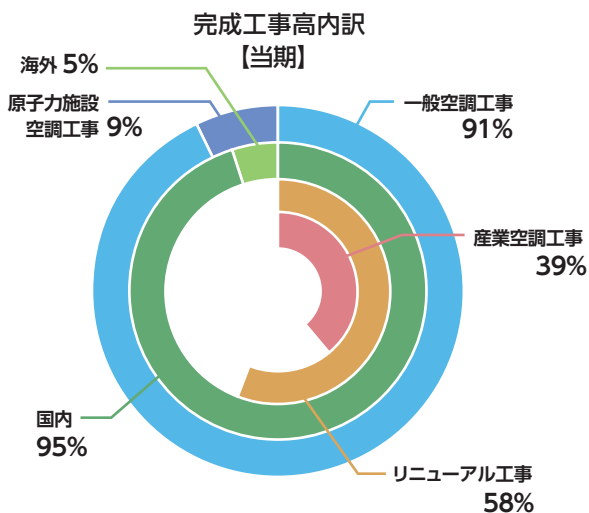
【2014年度竣工事例】



hu+g MUSEUM



札幌三井JPビルディング



連結貸借対照表(要約)

(単位: 百万円)

	当期 (平成27年3月31日現在)	前期 (平成26年3月31日現在)		当期 (平成27年3月31日現在)	前期 (平成26年3月31日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	52,348	57,783	流動負債	41,156	47,878
固定資産	31,303	27,219	固定負債	4,428	3,089
有形固定資産	3,306	3,036	負債合計	45,584	50,968
無形固定資産	340	306	純資産の部		
投資その他の資産	27,656	23,876	株主資本	29,251	28,606
			資本金	5,158	5,158
			資本剰余金	6,887	6,887
			利益剰余金	17,232	16,585
			自己株式	△26	△24
			その他の包括利益累計額合計	8,815	5,427
			純資産合計	38,067	34,034
資産合計	83,652	85,002	負債純資産合計	83,652	85,002

連結損益計算書(要約)

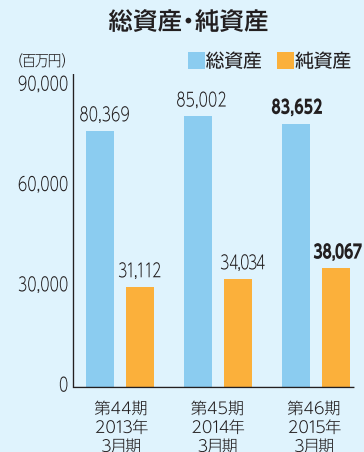
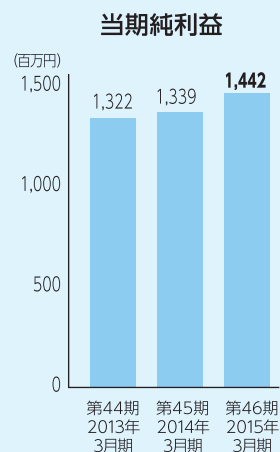
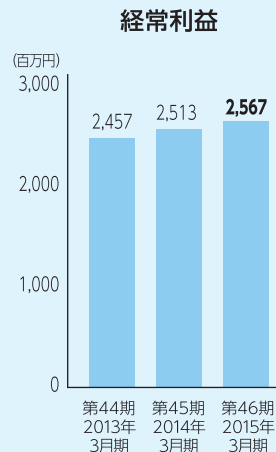
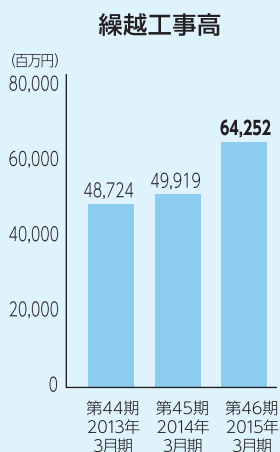
(単位: 百万円)

	当期 (平成26年4月1日～ 平成27年3月31日)	前期 (平成25年4月1日～ 平成26年3月31日)
完成工事高	86,508	92,034
完成工事原価	78,173	83,666
完成工事総利益	8,334	8,368
販売費及び一般管理費	6,192	6,135
営業利益	2,142	2,232
営業外収益	467	336
営業外費用	42	55
経常利益	2,567	2,513
特別利益	6	254
特別損失	152	228
税金等調整前当期純利益	2,420	2,538
法人税、住民税及び事業税	690	979
法人税等調整額	287	219
少数株主損益調整前当期純利益	1,442	1,339
当期純利益	1,442	1,339

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位: 百万円)

	当期 (平成26年4月1日～ 平成27年3月31日)	前期 (平成25年4月1日～ 平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,776	1,690
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3	△1,133
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,566	△483
現金及び現金同等物に係る換算差額	209	227
現金及び現金同等物の増減額	1,415	301
現金及び現金同等物の期首残高	6,092	5,790
現金及び現金同等物の期末残高	7,507	6,092

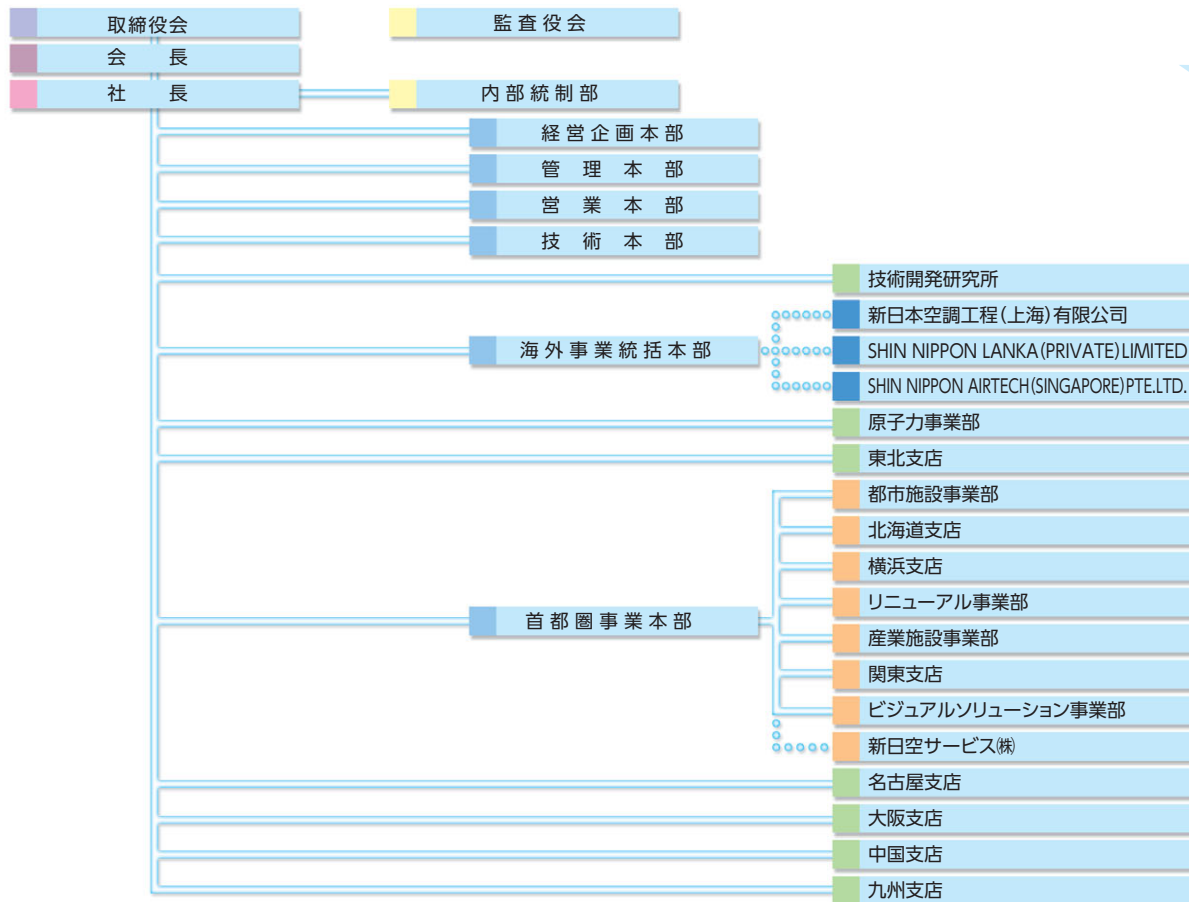


組織概要

ステークホルダーの皆様から信頼される企業を目指し、一丸となって活動しております。

組織図

(2015年6月19日現在)



役員・執行役員

(2015年6月19日現在)

代表取締役会長	高橋 薫	社外取締役	一宮 正寿	執行役員	満山 健
代表取締役社長	夏井 博史	社外取締役	森 信茂 樹	執行役員	岡野 登
常務取締役	宇佐美 威司	常勤監査役	山田 勇夫	執行役員	高橋 秀幸
常務執行役員	宇佐美 威司	社外監査役	吉岐尾 透	執行役員	伊藤 文隆
常務執行役員	淵野 聡志	社外監査役	鶴野 隆一	執行役員	本多 豊
取締役	楠田 守雄	社外監査役	城之尾 辰美	執行役員	松浦 正志
上席執行役員	赤松 敬一	専務執行役員	片山 勝久	執行役員	増沢 吾朗
取締役	大宮 祥光	常務執行役員	石井 直樹	執行役員	伊藤 雅基
上席執行役員	大宮 祥光	常務執行役員	田町 賢一	執行役員	中曾根 寛
取締役	下元 智史	上席執行役員	金石 正博	執行役員	浅岡 克好
上席執行役員	下元 智史	上席執行役員	三橋 渡	執行役員	田中 幹武
取締役	遠藤 清志	上席執行役員	和木 英人		
上席執行役員	遠藤 清志				

事業所所在地

(2015年7月1日現在)

■ 本社	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1(浜町センタービル)	TEL 03-3639-2700	FAX 03-3639-2732
■ 内部統制部		TEL 03-3639-2705	FAX 03-3639-2735
■ 経営企画本部		TEL 03-3639-2701	FAX 03-3639-2734
■ 管理本部		TEL 03-3639-2700	FAX 03-3639-2732
■ 営業本部		TEL 03-3639-2720	FAX 03-3639-2750
■ 技術本部		TEL 03-3639-2702	FAX 03-3639-2736
■ 技術開発研究所	〒391-0013 長野県茅野市宮川7033-182	TEL 0266-73-9611	FAX 0266-73-9615
■ 海外事業統括本部	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1(浜町センタービル)	TEL 03-3639-2704	FAX 03-3639-2738
■ 原子力事業部	〒235-0036 神奈川県横浜市磯子区中原1-1-34(工学センター)	TEL 045-755-2221	FAX 045-755-2214
■ 六ヶ所総合事務所	〒039-3212 青森県上北郡六ヶ所村大字尾駮字野附1-57(尾駮レイクタウン内)	TEL 0175-71-0212	FAX 0175-71-1319
■ 東通出張所	〒039-4224 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34-4	TEL 0175-45-5501	FAX 0175-45-5505
■ いわき事務所	〒970-0101 福島県いわき市平下神谷字下川原1-47	TEL 0246-34-0742	FAX 0246-34-0747
■ 福島事務所	〒979-0622 福島県双葉郡富岡町大字毛萱字前川原232-16(東電福島第二原子力発電所内)	TEL 0240-25-4611	FAX 0240-26-0015
■ 東海村営業所	〒319-1112 茨城県那珂郡東海村村松250	TEL 029-282-2177	FAX 029-282-2926
■ 女川出張所	〒986-2221 宮城県牡鹿郡女川町塚浜字前田1(女川原子力保守センター内)	TEL 0225-53-2598	FAX 0225-50-1125
■ 柏崎刈羽出張所	〒945-0016 新潟県柏崎市青山町3-1(第二企業センター合同棟)	TEL 0257-20-3636	FAX 0257-45-2213
■ 敦賀出張所	〒914-0842 福井県敦賀市明神町1(原電敦賀発電所内)	TEL 0770-26-1140	FAX 0770-26-1606
■ 浜岡出張所	〒437-1695 静岡県御前崎市佐倉5561(中部電力浜岡原子力発電所内)	TEL 0537-86-3126	FAX 0537-63-0087
■ 北海道支店	〒060-0002 北海道札幌市中央区北二条西4-1(札幌三井JPビルディング)	TEL 011-221-3031	FAX 011-221-8653
■ 東北支店	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町3-7-1(電力ビル本館)	TEL 022-221-7551	FAX 022-214-2603
■ 青森営業所	〒039-3212 青森県上北郡六ヶ所村大字尾駮字野附1-57(尾駮レイクタウン内)	TEL 0175-72-2055	FAX 0175-71-1319
■ 岩手営業所	〒024-0102 岩手県北上市北工業団地5-11	TEL 0197-66-2802	FAX 0197-66-2803
■ 秋田営業所	〒010-0921 秋田県秋田市大町2-4-44(秋田第一ビルディング5階)	TEL 018-862-0717	FAX 018-865-6140
■ 山形庄内営業所	〒998-0842 山形県酒田市亀ヶ崎2-26-38	TEL 0234-23-4620	FAX 0234-23-4612
■ 郡山営業所	〒963-8025 福島県郡山市桑野2-20-17(ジネックスビル)	TEL 024-921-4964	FAX 024-921-4965
■ 首都圏事業本部	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1(浜町センタービル)	TEL 03-3639-2703	FAX 03-3639-2737
■ 都市施設事業部	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1(浜町センタービル)	TEL 03-3639-2740	FAX 03-3639-2745
■ 甲府営業所	〒400-0824 山梨県甲府市蓬沢町945-1	TEL 055-222-1811	FAX 055-222-1866
■ 長野営業所	〒391-0013 長野県茅野市宮川7033-182	TEL 0266-75-2742	FAX 0266-75-2741
■ 新潟営業所	〒951-8068 新潟県新潟市中央区上大川前通5-84(電力ビル新潟)	TEL 025-378-0475	FAX 025-378-0476
■ リニューアル事業部	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1(浜町センタービル)	TEL 03-3639-2707	FAX 03-3639-2760
■ 羽田空港営業所	〒144-0041 東京都大田区羽田空港1-7-1(空港施設第二総合ビル)	TEL 03-3747-0015	FAX 03-3747-0017
■ 西東京営業所	〒190-0012 東京都立川市曙町2-36-2(ファーレ立川センタースクエア7階)	TEL 042-540-2907	FAX 042-525-2908
■ 産業施設事業部	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1(浜町センタービル)	TEL 03-3639-2730	FAX 03-3639-2743
■ 八王子出張所	〒191-0065 東京都日野市旭ヶ丘6-12-11(エクセレントビル2階)	TEL 042-582-3733	FAX 042-582-3734
■ ビジュアルソリューション事業部	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1(浜町センタービル)	TEL 03-3639-2206	FAX 03-3639-2377
■ 関東支店	〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央1-11-1(千葉中央ツインビル1号館)	TEL 043-221-8311	FAX 043-221-8314
■ 茨城営業所	〒319-1112 茨城県那珂郡東海村村松250	TEL 029-306-2430	FAX 029-306-2431
■ 宇都宮営業所	〒321-0953 栃木県宇都宮市東宿郷1-9-15(フローラビル)	TEL 028-633-8700	FAX 028-637-9590
■ 埼玉営業所	〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-11-2(YK-11ビル)	TEL 048-645-6201	FAX 048-647-5808
■ 横浜支店	〒231-0013 神奈川県横浜市中区住吉町4-45-1(関内トーセイビルII)	TEL 045-651-4135	FAX 045-651-4136
■ 川崎出張所	〒210-0869 神奈川県川崎市川崎区東扇島6-10(かわさきファズ)	TEL 044-287-2456	FAX 044-287-2457
■ 名古屋支店	〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南1-24-30(名古屋三井ビル本館6階)	TEL 052-582-7531	FAX 052-581-7934
■ 北陸総合営業所	〒920-0919 石川県金沢市南町5-20(中屋三井ビル)	TEL 076-221-5924	FAX 076-221-5930
■ 福井営業所	〒910-0005 福井県福井市大手3-2-1(日本生命福井大手ビル)	TEL 0776-21-7258	FAX 0776-26-9943
■ 静岡営業所	〒420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町11-7(三井生命静岡駅前ビル)	TEL 054-255-6411	FAX 054-255-0659
■ 三河営業所	〒448-0037 愛知県刈谷市高倉町6-709	TEL 0566-24-4050	FAX 0566-24-5031
■ 大阪支店	〒550-0001 大阪府大阪市西区土佐堀2-2-4(土佐堀ダイビル)	TEL 06-6445-6331	FAX 06-6445-6373
■ 京滋総合営業所	〒600-8008 京都府京都市下京区四条通烏丸東入ル長刀鉾町8(京都三井ビル)	TEL 075-256-3732	FAX 075-256-5524
■ 神戸営業所	〒650-0037 兵庫県神戸市中央区明石町32(明海ビル)	TEL 078-332-1125	FAX 078-332-1486
■ 四国営業所	〒760-0017 香川県高松市番町1-6-1(住友生命高松ビル)	TEL 087-821-1090	FAX 087-821-1086
■ 中国支店	〒730-0051 広島県広島市中区大手町2-7-10(広島三井ビルディング)	TEL 082-247-3551	FAX 082-247-3549
■ 岡山営業所	〒700-0903 岡山県岡山市北区幸町8-29(三井生命岡山山ビル10階)	TEL 086-232-4469	FAX 086-231-8194
■ 山陰営業所	〒683-0035 鳥取県米子市目久美町25-9(ベルトピア米子B202)	TEL 0859-32-2040	FAX 0859-32-2041
■ 山口出張所	〒754-0002 山口県山口市小郡下郷860-6(アクティブS107)	TEL 083-973-2139	FAX 083-973-2199
■ 九州支店	〒812-0036 福岡県福岡市博多区上呉服町10-1(博多三井ビル)	TEL 092-262-7751	FAX 092-262-6661
■ 大分営業所	〒870-0125 大分県大分市松岡4242-3	TEL 097-520-1526	FAX 097-520-2494
■ 鹿児島営業所	〒892-0846 鹿児島県鹿児島市加治屋町18-8(三井生命鹿児島ビル)	TEL 099-223-1215	FAX 099-224-7804
■ 沖縄営業所	〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地2-15-18(ライオンズマンション久茂地)	TEL 098-868-0013	FAX 098-868-0596
■ 新日空サービス株式会社	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-3-6(ワカ末ビル)	TEL 03-5200-3940	FAX 03-5200-3935
■ 新日本空調工程(上海)有限公司	中華人民共和国上海市江場三路301号2階	TEL 86-21-51060068	FAX 86-21-51060063
■ SHIN NIPPON LANKA (PRIVATE) LIMITED	309/1, Colombo Road, Welisara, Sri Lanka	TEL 94-11-200-5300	FAX 94-11-223-6599
■ SHIN NIPPON AIRTECH (SINGAPORE) PTE.LTD.	315 Outram Road, #09-06, Tan Boon Liat Building, Singapore 169074	TEL 65-6227-2300	FAX 65-6227-3122
■ SHIN NIPPON AIRTECH (SINGAPORE) PTE.LTD. MYANMAR BRANCH	No.1, Saw Hla Baw Street, Bauk Htwaw, Yankin Township, Yangon, Myanmar	TEL 95-1-401-354	FAX 95-1-401-354

新日本空調の歴史

新日本空調は超高層ビルの空調や地域冷暖房を日本で最初に手がけ、またクリーンルームのパイオニアとして重要な役割を果たしてきました。新日本空調の歴史は20世紀の始めに幕を開けた米国キャリア社に遡ります。「技術のキャリア」と呼ばれ、世界を席卷した高い技術力とパイオニア精神を受け継ぎ、創業以来80年余りにわたって実績とノウハウを積み重ねてきました。その成果が「新日本空調の歴史」ひとつひとつに刻まれています。



満鉄特急あじあ号



横浜国際総合競技場 (日産スタジアム)

我が国初の超高層ビル「霞が関ビル」の空調施工
 第1回空衛学会賞受賞 (東京文化会館)
 日本原子力研究所(東海村)に我が国初の原子炉空調施工
 関釜連絡船「興安丸」に世界初の全船空調施工
 満鉄特急「あじあ号」に世界初の全列車空調施工

1930 昭和5年
 「東洋キャリア工業株式会社」設立
 米国キャリアコーポレーションと提携

1935 昭和10年

1936 昭和11年

1957 昭和32年

1963 昭和38年

1968 昭和43年

1969 昭和44年
 東洋キャリア工業株式会社の工部門を分離独立し
 新日本空調株式会社設立
 東京支店・大阪支店・名古屋支店開設

1971 昭和46年
 新宿新都心に大規模地域冷暖房施工

1974 昭和49年
 九州支店・中国支店・北海道支店設置

1983 昭和58年
 神奈川県横浜市に「工学センター」開設

1984 昭和59年
 東北支店設置

1989 平成元年
 横浜支店設置

1990 平成2年
 東京証券取引所市場2部に上場

1991 平成3年
 メンテナンスサービスを専門とした子会社「新日本空調サービス株式会社」設立
 東関東支店設置

霞が関ビル

工学センター



沖縄美ら海水族館 (写真提供: 海洋公園・沖縄美ら海水族館)



東京ミッドタウン

- 1993**
平成5年
東京証券取引所市場1部に上場
長野県茅野市に「技術研究所」開設
- 1997**
平成9年
日本最大規模の観客収容能力を誇る屋外多目的競技場である「横浜国際総合競技場」の空調施工
- 1998**
平成10年
世界最高レベルの「微粒子および気流可視化システム」開発
- 2000**
平成12年
国内全店でISO9001を認証取得
- 2001**
平成13年
本社および国内全事業部門でISO14001を認証取得
- 2002**
平成14年
世界最大級の水族館である「沖縄美ら海水族館」の空調・衛生施工
- 2003**
平成15年
中華人民共和国(上海市)に現地法人「新日本空調工程(上海)有限公司」設立
- 2007**
平成19年
都心型複合施設「東京ミッドタウン」の空調施工
- 2008**
平成20年
スリランカ民主主義共和国に現地法人「SHINNIPPON LANKKA (PRIVATE) LIMITED」設立
- 2009**
平成21年
労働安全衛生マネジメントシステムOHSAS18001・2007年版を認証取得
シンガポールにおけるスカイラインの家徴である「マリナー・ベイ・サンズ」(シンガポール)の空調施工
- 2010**
平成22年
シンガポール共和国に現地法人「SHINNIPPON AIRTECH (SINGAPORE) PTE. LTD.」設立
- 2012**
平成24年
第50回空衛学会賞(論説文賞)受賞
「熱源システムのモデリングによるポンプ可変速制御方法」
- 2014**
平成26年
ミャンマー連邦共和国にシンガポール現地法人の支店「MYANMAR BRANCH」開設
- 2015**
平成27年
保有技術の発信拠点「SNK e-Labo」3施設オープン



技術研究所・茅野研修所



開発Labo ショールーム

企業活動

新日本空調グループは、透明性の高い企業活動を展開することで「企業価値の向上」を図っています。

新日本空調グループのCSR

新日本空調は2007年11月にCSR委員会を発足し、CSR活動の課題や具体的な展開について繰り返し協議しています。新日本空調グループは、ステークホルダー（顧客・株主・職員・協力会社等）の皆様から信頼される企業を目指し、経済・環境・社会の三つの側面でバランスの取れた経営を実践してまいります。

CSRガイドライン

1.基本姿勢と透明性の高い企業活動

「企業理念」「経営基本方針」の具現化を通じて、「社会的に信頼される企業」の実現を目指し、コーポレートガバナンス体制を強化するとともに、透明性の高い企業活動を展開します。

2.コンプライアンス(法令順守)の推進・徹底

全ての役職員が「企業行動憲章」を順守し、「話す勇氣と聴く姿勢」をスローガンに、高い倫理観と責任感をもって行動し、社会の発展に貢献します。

3.安全・品質・環境マネジメントの強化

信頼性の高い設備の供給によって「顧客満足度の向上」を図るべく、安全衛生・施工・品質・環境保全の管理体制を強化するとともに、「省エネ」と「快適性」を両立させる技術の研究・開発を推進し、室内環境と地球環境の改善に貢献します。

4.ステークホルダーとの対話促進

顧客、株主・投資家、職員、協力会社・取引先、行政、地域社会、マスメディア、アナリストなどとの対話・協働を実践し、双方向コミュニケーションに努めます。

5.人権尊重・人材育成の推進

人権を尊重し、雇用の多様化・人材育成に取り組むとともに、職員が健康で社会の一員として活躍できるよう、職場環境の改善に努めます。

6.社会貢献活動の推進

「良き企業市民」として、芸術文化、スポーツ、教育・福祉などの振興を継続的に支援します。また、職員のボランティア活動への参加を支援します。

事業継続計画(BCP)への取組み

当社では、非常時においても事業を継続し、社会的責任を果たすため、BCP委員会を定期的で開催し、より現状に即したBCPを策定しています。(現行は2014年4月改訂版)

毎年、『防災の日』(9月1日)にあわせて全店訓練を実施しています。2014年度の訓練では、中国地方での地震発生を想定し、「全役職員1,121名の安否確認」や「施工現場、協力会社、顧客の被災状況の確認」、「テレビ会議システムを用いた、被災地の復旧支援および事業継続のための全店協議」などの訓練を行いました。具体的な支援手順についての検討も行われ、有意義な訓練となりました。

当社BCPの方針

- 1.当社の役職員とその家族の安否確認、安全確保を最優先する。
- 2.当社の財産・資産の保全を図る。
- 3.可能な限り迅速に情報ネットワークを回復し、事業再開体制を構築する。
- 4.顧客対応(被災状況確認)とその事業再開支援を行う。
- 5.地域社会と連携を図り、企業の社会的責任を全うする。

コンプライアンス

新日本空調グループは、コンプライアンス推進活動を通して、役職員一人ひとりが法令順守だけでなく、高い倫理観と責任感をもって行動できるよう教育を行っています。
今後もコンプライアンスの徹底を図り、社会の発展に貢献してまいります。

コンプライアンスの徹底のための施策

当社は、法令順守や公正な競争の推進等を「企業理念」、「企業行動憲章」に掲げ、以下の施策を実施し、コンプライアンス強化に努めております。

- 1 代表取締役社長より“当社はコンプライアンスに違反した仕事のやり方、利益の追求は絶対に行わない”とする「コンプライアンス徹底宣言」の表明
- 2 上記宣言の確実な遂行を図るため、全役職員による「コンプライアンス宣言書」の提出
- 3 会社経営に関わるリスクに対応するため、代表取締役社長を委員長とし、社外有識者を含めた経営倫理委員会を設置
- 4 コンプライアンスの統括責任者として管理本部長をCCOに任命、CCOを委員長としたコンプライアンス委員会を設置
- 5 受注プロセスの適切性を評価・監督するため、内部統制部長を委員長とした受注プロセス監視委員会を設置
- 6 内部統制部による業務監査の強化
- 7 ヘルプラインと独占禁止法相談窓口の設置
- 8 各種教育を繰り返し実施
- 9 適切な人事ローテーションと厳格な社内処分の実施
- 10 内部統制部および監査役による点検・モニタリングの実施

内部統制への取組み

新日本空調グループは、内部統制システムの基本方針を定め、職務の執行が法令・定款に適合するための適切かつ効率的な体制の確保を図っています。
また、財務諸表の信頼性を確保するために、虚偽記載等の不正および法令違反に繋がるリスクへの対応に努めています。

内部統制システムの基本方針

当社は、会社法に基づく「業務の適正を確保するために必要な体制」の基本方針を取締役会で定め、職務の執行が法令・定款に適合するための、適切かつ効率的な体制の確保を図っています。

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 取締役および使用人の職務の執行が法令・定款に適合することを確保するための体制 2 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制 3 損失の危険の管理に関する規程その他の体制 4 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制 5 当社企業集団における業務の適正を確保するための体制 | <ol style="list-style-type: none"> 6 監査役職務を補助すべき使用人に関する事項および当該使用人の取締役からの独立性に関する事項、当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項 7 当社企業集団の取締役および使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制 8 その他監査役が効率的に監査が行われることを確保するための体制 9 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方およびその整備状況 |
|---|--|

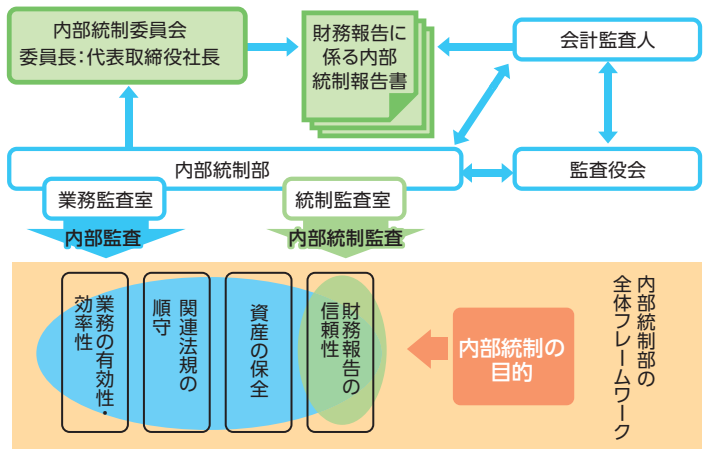


財務報告に係る内部統制

金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制」の有効性については、代表取締役社長を委員長とする内部統制委員会を設置し、財務報告の重要な事項に虚偽記載が発生しないための社内体制を構築、推進しています。

2014年度の整備・運用状況は、内部統制部による評価の結果、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しており、監査法人の監査結果においても、その有効性が確認されています。

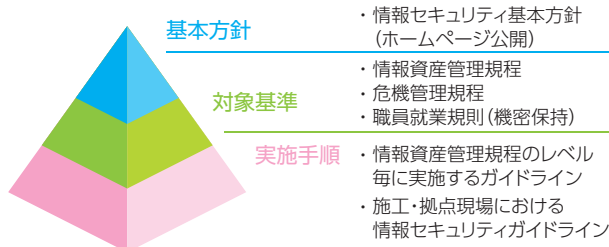
財務報告に係る内部統制評価体制図



情報セキュリティへの取組み

新日本空調グループは、情報セキュリティへの取り組みを重要課題の一つと位置付け、情報セキュリティポリシーおよびその実行に伴う体制を定めると共に、教育によるリテラシー向上とシステム面でのセキュリティ対策により、強固な情報セキュリティ対策を実施しております。

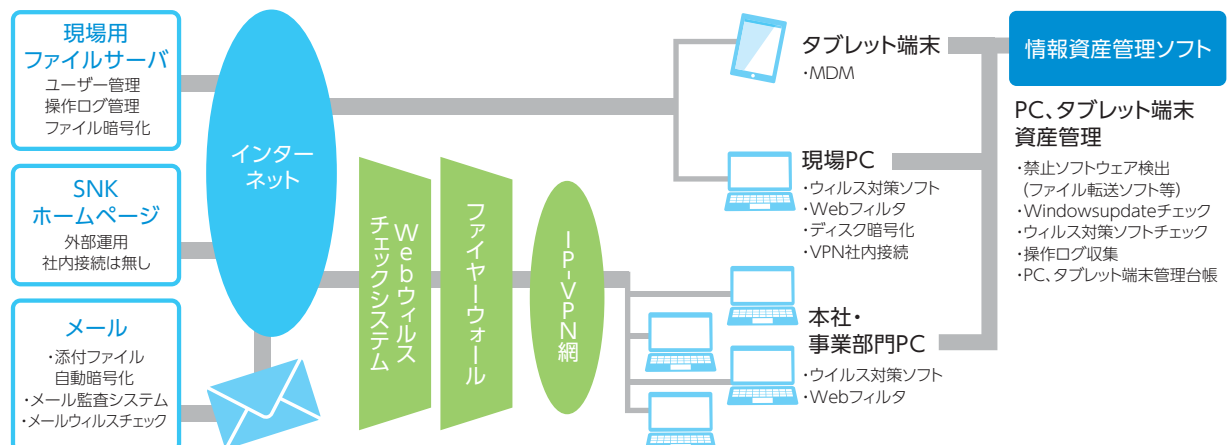
文書体系(情報セキュリティポリシー)



教育

- 情報セキュリティ教育(毎年)
 - ・当社ネットワーク利用者全員
- 全施工・拠点現場および事務所にポスター掲示
 - ・「情報漏えい防止徹底のお願い」のポスター掲示

情報セキュリティ対策(システム面)



特集

SNK e-Labo

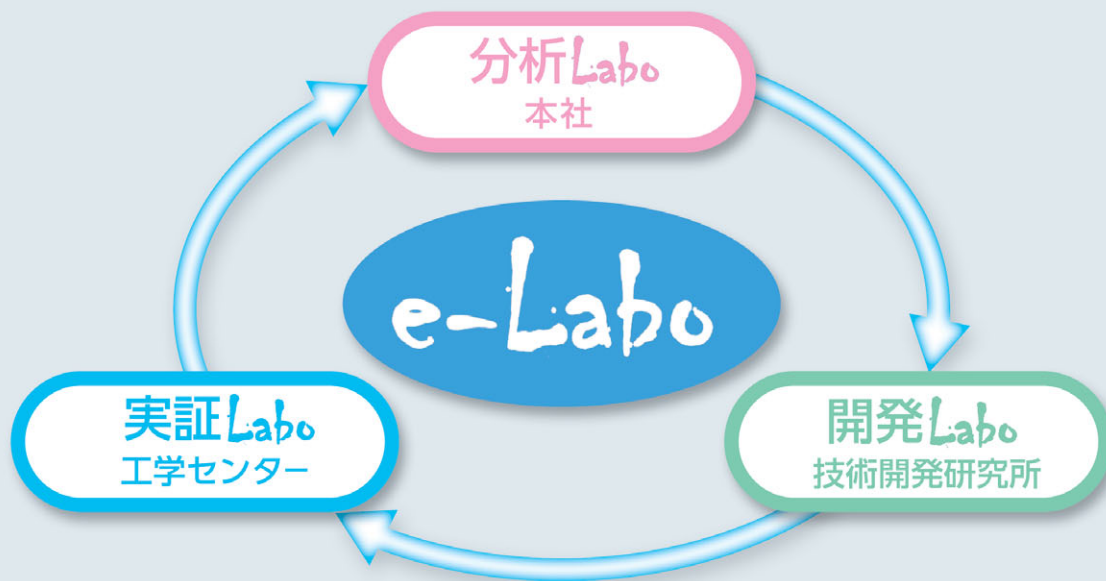
トピックス

当社保有技術の「見える化」のための 発信拠点「SNK e-Labo」を開設

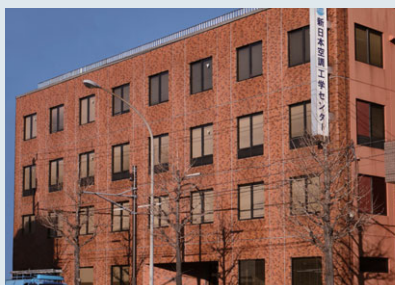
中期経営計画「究極進化プラン2016」の基本課題である『顧客ニーズ、事業ニーズに基づく技術開発の強化』の具体的施策の一つとして、ZEB化の先端技術の展示やソリューションの提供を目的とした当社技術の主要発信拠点「SNK e-Labo」を開設しました。

e-Laboとは、当社の様々な保有技術と共に、省エネルギー (energy-saving) や地球環境に配慮 (environmental) し、自然エネルギーを活用 (ecological) した技術を体感できる施設で、

- ・「開発Labo」(技術開発研究所:長野県茅野市)
 - ・「実証Labo」(工学センター:神奈川県横浜市)
 - ・「分析Labo」(本社プレゼンルーム:東京都中央区日本橋)
- の3施設で構成されています。



開発 Labo



実証 Labo



分析 Labo

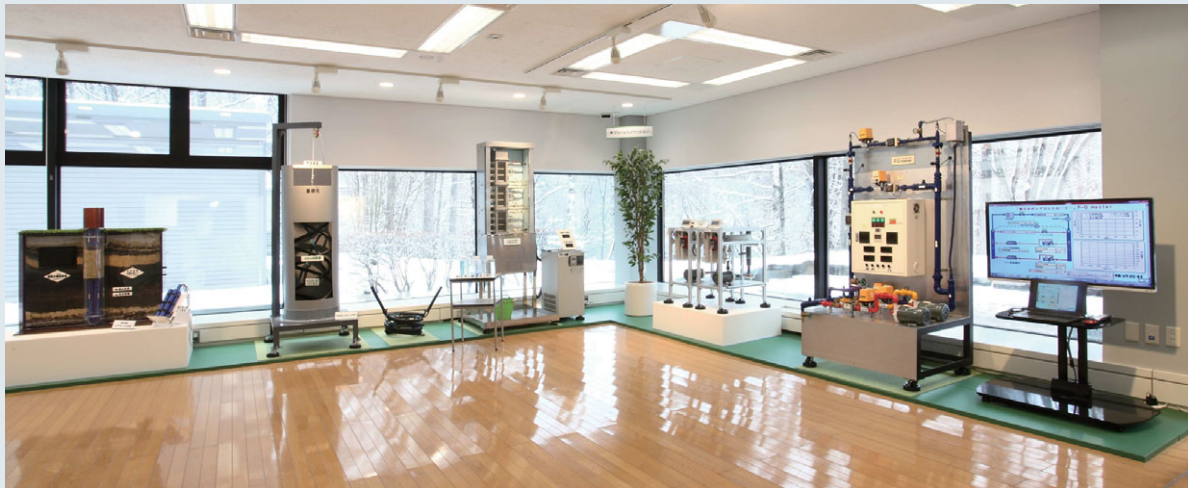


開発Labo 技術開発研究所

技術開発研究所の開設から20年が経過した設備の劣化更新に合わせてZEB化要素を加えた改修工事を行いました。標高1,000mの高地に立地しているため、夏は温湿度の低い冷涼な気候・冬は最低気温が-15℃になる厳寒な環境です。この地域の特徴を積極的に活用した省エネシステムや創エネ技術を導入し、冬季の快適性を追求すると同時に、省エネを図っています。

「開発した技術の展示」と「各種データの見える化」に加えて「実用化を目指している開発途中の技術展示」は、この開発Laboの特徴の一つです。

見学と体感を通して、「この技術を応用すれば、こんなことができるかもしれない」といったお客様の潜在的なニーズをとらえ、研究員との活発なディスカッションを通してソリューションに活用していきます。



ショールーム

開発Laboで体感できること

「地中熱・太陽熱・空気熱のハイブリッド活用」を取り入れた当社独自の熱源システムの実機見学や「天井、床吹き切り替え空調システム」を体感していただけます。ショールームでは開発した技術のデモ機によりその効果を具体的に確認したり、実験室ではデモンストレーションを見学したり、難しい技術の説明を分かりやすく実感していただけます。



太陽熱温水パネル



天井、床吹き切り替え空調システム

特集

SNK e-Labo

実証Labo 工学センター



屋上の設備機器

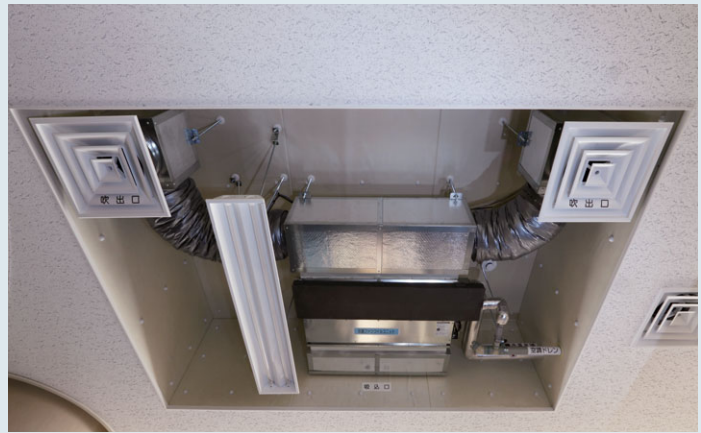
建物竣工後30年が経過した設備の劣化更新に合わせてZEB化要素技術を導入した改修工事を行いました。新日本空調が研究・開発した独自技術や最新の省エネ機器を採用することで「省エネ・創エネ」と「快適な室内環境」を両立させる空調システムにリニューアルしています。ショールームとしての機能を持たせ、導入した設備の設置状況やエネルギー消費などを「見える化」しています。各所に大型モニターを設置し、難しい技術を動画でわかりやすく紹介します。

実証Laboで体感できること

お客様には、最初にプレゼンルームで設備の概要をご説明します。この部屋は、「空気式天井放射空調」が採用されており、快適な空間を体感していただいております。その後建物内をご案内します。1階から屋上までの施設内に設けた見学ルートでは室内環境を体感できるほか、省エネ・創エネ機器の特徴や、普段は隠れて見えない設備を紹介します。機器、配管、ダクトなどの見学を通して、当社の技術をより身近なものとしてご理解いただけます。

導入されている当社独自技術やそれらの関連機器、例えば「空気式天井放射空調とCPCS-Ⅲ」「省エネで快適な空調制御 アクティブスウィング」など、実際の使用環境を紹介・体感していただけます。

ショールームでは「表面異物識別用可視化ツール Dライト」などの最新の実験模型から、「超高性能縦型ルーバ レインキャプチャー」をはじめとする多数の納入実績がある技術をさわっていただき、その効果を体感することができます。



天井内の一部を見学



空気式天井放射空調と CPCS-Ⅲ



分析Labo 本社

新日本空調で開発した最新技術の運転データや性能データを分析・評価する「分析拠点」です。さらに、お客様のご要望に合わせて、私たちが保有するたくさんの技術のプレゼンテーションを行う「情報発信拠点」でもあります。

当社は、社内ネットワークを活用し、技術開発研究所・工学センター・本社におけるエネルギーの「見える化」を実現しました。エネルギーの使用状況や運用状態などの情報を収集・蓄積し、各施設に導入した独自技術やZEB化要素技術の効果を分析・評価しています。独自技術を「もっと良いものに」また、「問題が見つければ改善へ」とPDCAサイクルを回していきます。



プレゼンルーム

分析Laboで体感できること

当社の保有技術を紹介する各種コンテンツとICT機能とを組み合わせ、お客様のご要望に応じたスマートプレゼンテーションを行うことで、より分かりやすく、より具体的に、当社の技術をお伝えします。特にお客様から注目を集めている「微粒子可視化システム」と「熱源最適制御システム Energy Quest®」は、デモ機を使い、よりリアルに体感していただけると同時に、専門スタッフがより詳細にご説明いたします。



Energy Quest® デモ機



微粒子可視化システムのクリーンブース

当社のe-Labo体制

「建築・空調・衛生・計装・電気設備に横串を刺した水平方向のワンストップ」と「分析・改善といった時間軸での垂直方向のワンストップ」で、お客様の省エネ・創エネ・節電・室内環境改善のソリューションに応じていくと共に、地球環境保全に貢献してまいります。

ショールームの見学は、当社職員にお申し付けください。お客様の希望に合わせたプレゼンテーションを計画いたします。

当社保有の技術紹介

当社の保有技術

新日本空調グループが、独自開発した保有技術の一部をご紹介します。
これらの技術をはじめ、多くの独自技術が空調エンジニアリングの最前線を切り開いていきます。

微粒子可視化システムの新ラインナップ 新型光源「パラレルアイF」と表面異物識別用可視化ツール「Dライト」

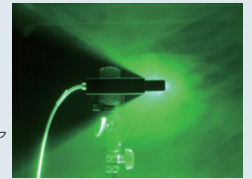
当社は、レーザーファイバに接続した超小型出射ヘッドから、300度までレーザーシートを広げることができる機能を持つ可視化用の新型光源「パラレルアイF」を新しいラインナップとして市場投入しました。

新型光源「パラレルアイF」は、レーザーファイバで光伝送した先端の出射ヘッドに、様々なタイプの出射口を交換装着することで5~300度まで段階的にシートを広げることができます。これまでの微粒子可視化用光源に対して、主に、低速から高速までのトレーサ（細部まで気流を見るための煙状やミスト状の大量の微粒子）の散乱光の濃淡を利用した気流可視化や、可視化用のレーザーを通す窓がない装置や乾燥炉内に出射ヘッドだけを挿入して気流や粒子の可視化をするときに最適な可視化光源です。

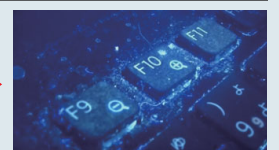
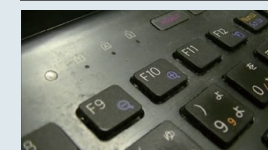
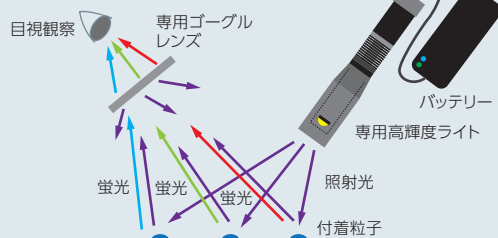
また、紫外線LEDを光源とし、落下塵や付着粒子を検出すると共に、粒子から発生する蛍光色の違いを観察することで、粒子の種類を判別することが可能な新しい可視化ツール「Dライト」を開発しラインナップに追加しました。

「Dライト」は、紫外線LEDと光学フィルターを使用して、塵埃の検出と種類の判別に最適な光を生成する専用高輝度ライトと、目視による識別感度を向上させる専用ゴーグルを組み合わせた新しいタイプの可視化ツールです。

■パラレルアイF



■Dライト



省エネ局所排気システム「Hi ELES™」

当社は、電子デバイスなどの製造プロセス用局所排気システムに特化した、安定制御と低価格を両立した省エネ局所排気システム「Hi ELES™ (High Efficient Local Exhaust System)」を開発しました。

本システムは、医薬分野の研究開発用ドラフトチャンバ給排気システムで採用されている、高速VAVの不要な機能を除き、風量測定精度と安定制御に機能を絞り込むことで、省エネルギーのために必要な低風量域までの安定制御を実現しました。

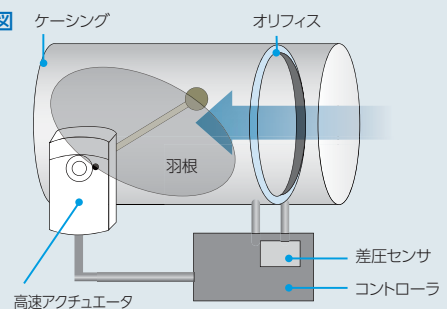
システム構成コストは、機能を絞り込むことと局所排気用ダンパに差圧センサ、コントローラ、アクチュエータを一体化することにより、当社従来比1/3を達成しました。

また、当社の技術開発研究所において、モックアップ施設を用いて風量測定精度と、制御の安定性の検証試験を実施すると共に、電子デバイス工場に試験導入し、フィールドテストを実施して、単体で40%以上の風量削減による省エネ性を実証しました。

■モックアップ施設全景



■構成図



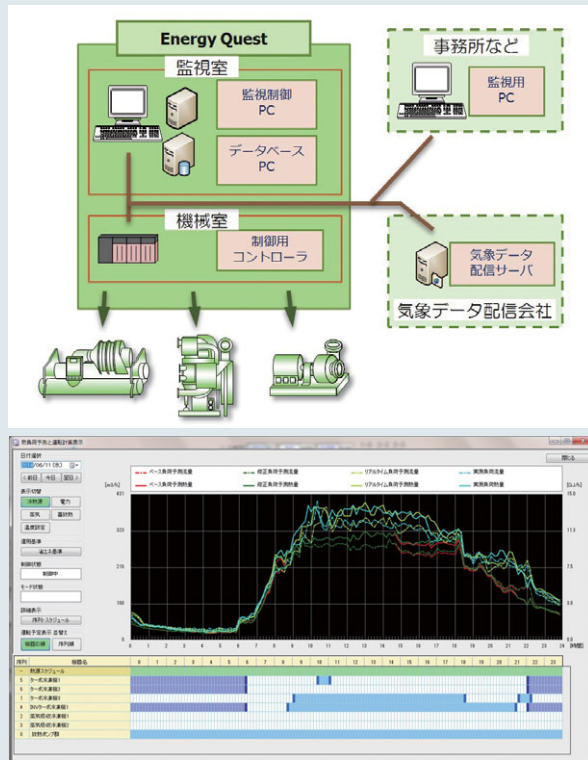


熱源最適制御システム「Energy Quest® エナジークエスト」

最近の空調の熱源システムでは、部分負荷特性に優れた熱源機や未利用エネルギーを活用する熱源機の普及、BCP対策を考慮したエネルギー供給源の多様化に対応する熱源構成など、様々な種類や性能の熱源機器が運用されています。

しかしながら、このような熱源機器構成の場合、従来型の制御ではエネルギー効率の観点から熱源システム全体としてのポテンシャルを十分に引き出すことは難しく、効率の良い運用方法が求められています。このことから当社は、運用目的に応じて、様々な種類や性能を含む熱源システムを最適に運用する制御システム「Energy Quest® エナジークエスト」を開発しました。

「Energy Quest® エナジークエスト」は、ユーザーが運用目的に合わせて最適にしたい対象（最適運用基準）を、一次エネルギー量を最小にする「省エネ」の他、「省電力」「省CO₂」から選択することができます。更にガス量をコントロールしながら省エネを目指す「ガス利用平準化」、CGS等の排熱を優先しながら省エネを目指す「排熱優先利用」等の対応も可能です。これら運用基準の組合せにより、電気・ガスのベストミックス熱源での運用や、節電要求に伴うデマンドレスポンスへの対応などなど、ユーザーのご要望を満たします。

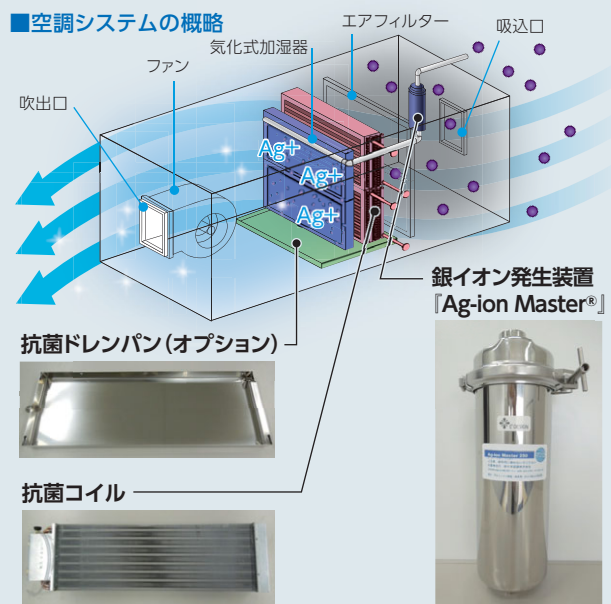


抗菌空調システム

病原性微生物（細菌）の人体への感染による発病や食品への混入による食中毒などが、大きな社会問題となり、細菌類の増殖に対し抑制効果が期待できる「抗菌」の要求は、医療施設や食品施設に限らず、あらゆる施設へ広がっています。

当社は、空調分野での長年の実績と経験に裏付けられた技術とノウハウを生かし、夏期は、抗菌処理した熱交換コイルとドレンパンを内蔵した空調機によって、冷房運転中に細菌類の増殖を抑制する『抗菌空調機』と、冬期は、水道水に含まれる塩素と銀型ゼオライトから発生する銀イオンの相乗効果によって気化式加湿器の元素表面やドレン水中の微生物の繁殖を抑制する銀イオン発生装置『Ag-ion Master®』を組み合わせ、年間を通して病原性微生物の繁殖を抑制する『新日本空調抗菌空調システム』を提供しています。

また、2013年2月に改訂された「病院空調設備の設計・管理指針（HEAS-02-2013）」では、推奨する加湿器に蒸気式に加え「気化式」が追加されました。そこで、気化式加湿器の衛生対策として優れている、『Ag-ion Master®』を導入することにより、「蒸気レス」が実現し、蒸気式に比べ最大65%程度のエネルギー削減も可能となります。



セグメント紹介

オフィス・ショッピングセンター・病院・ホテル等の暮らしに身近な環境づくりから、半導体工場・製薬工場・研究施設等のクリーンルーム・恒温恒湿室といった産業空間の創造。地域冷暖房等によるエネルギー供給。そしてそれら設備のメンテナンスまで。空調を核とした総合エンジニアリングを展開しています。



オフィス データセンター 商業・文化施設

Office, data center, commercial facility and cultural facility

人に優しく、心がはずむ環境を提案

オフィスで快適な時間を過ごしたり、商業施設での用途に合った雰囲気演出する空間を提供します。

人と環境とが共存

オフィスはOA機器の導入により事務の作業効率は飛躍的な進歩を遂げました。しかし、オフィスの主役はそこで働く人々。1日の大半をオフィスで過ごす私たちにとって、快適な空間でなくてはなりません。

また、劇場や博物館などの大空間や、天候を気にせず余暇を満喫できるドーム型スポーツ施設、ショッピングモールなど、様々な条件・用途に応じた環境コントロールが求められます。

当社は、オフィスビル、商業施設、文化施設などが私たちにとって最適な環境になるよう、最新の技術力で、見えない快適さを提供いたします。

室町古河三井ビルディング (東京都)

規 模 S造(一部SRC造・RC造) 地上22階 地下4階

延床面積 62,470㎡





ラゾーナ川崎東芝ビル (神奈川県)

規 模 S造・SRC造・免震構造 地上15階

延床面積 104,594㎡



ラブラ2 (LoveLa2) (新潟県)

規 模 RCSS造 (一部SRC造・S造) 地上8階 (5階～8階は駐車場)

延床面積 31,900㎡



ららぼーとTOKYO-BAY西館 (千葉県)

規 模 S造 地上4階

延床面積 40,180㎡



野村総合研究所 東京第一データセンター (東京都)

規 模 S造 (CFT) 地上4階 地下1階 塔屋1階

延床面積 38,820㎡



由利本荘市文化交流館「カダレ」 (秋田県)

規 模 RC造 地上3階 地下1階

延床面積 11,750㎡



ホテル 学校 病院

Hotel, school and hospital

快適で安心できる空間を実現

とっておきの自分時間や、安心して福祉に身をゆだねられる場所が欲しい。
そんな要望を叶える環境をお届けします。

快適に過ごせる空間を絶え間なくサポート

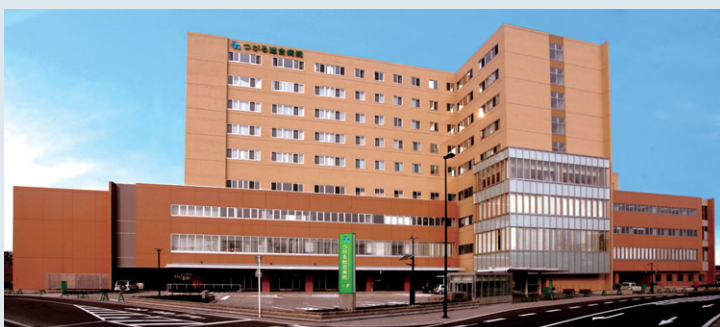
ホテルの客室や病院の病室は、24時間・365日、リラックスし、体を休め、安心して過ごせる空間であることが求められます。

当社は、目的・条件に合った空間をコントロールし、人に優しい快適な環境を創りだすお手伝いをいたします。

ホテルでは、季節を通じてお客様がくつろぎ快適に過ごせるよう空間をコントロールし、また、病院では、デリケートな健康状

態の方々や病院スタッフの方々に安心してお過ごしいただけるよう「穏やかな冷暖房」「適切な気流制御」「臭気の除去」や院内感染を防止するための「空気中の細菌除去」など、多くの必要条件を提供いたします。

当社は、あらゆるケースでフレキシブルに対応し、快適に過ごせる空間を絶え間なくサポートすることをお約束いたします。



つがる総合病院 (青森県)

規 模 RC造免震構造 地上10階
延床面積 36,872㎡



総合せき損センター (福岡県)

規 模 RC造 地上3階
延床面積 約15,445㎡



帝国ホテル (東京都)

規模 SRC造 本館:地上17階 地下3階
帝国ホテルタワー:地上31階 地下4階

延床面積 240,250㎡ (写真提供:帝国ホテル)



千葉工業大学2号棟 (千葉県)

規模 S造 地上20階 地下1階 塔屋1階

延床面積 28,571㎡



愛知大学名古屋キャンパス (愛知県)

規模 講義棟:SRC造(一部S造)
地上11階 地下1階 塔屋1階
厚生棟:RC造(一部S造及びSRC造)
地上10階 地下1階 塔屋1階

延床面積 62,711㎡



ホテルモンテ沖縄スパ&リゾート (沖縄県)

規模 S造 地上12階 塔屋1階

延床面積 約42,213㎡

企業活動

セグメント紹介

安全品質・環境マネジメント

身近な空調のはなし

ステークホルダーとの対話



最先端技術のニーズに対応

わずかな違いも許されない。
未来を創造する施設に欠かせないクリーンな環境を実現させます。

生産技術の向上に貢献します

半導体・液晶パネル・二次電池製造や、製薬・食品用に至る全ての産業空調や製造用のユーティリティ設備は、幅広く、また細部に渡り厳しい条件が要求されます。

クリーンルーム技術において当社は、「0.03ミクロン・クラス1」システムの構築実績があり、またお客様のニーズにあった温湿度管理・ケミカル制御やドライエア供給システムなど、

高い技術力にて対応しています。

さらに、当社の保有技術でもある「微粒子可視化技術」と信頼性のある「シミュレーション技術」を活用し、ビジュアルソリューション技術として、新築、既存設備を問わずお客様に最適かつ的確な技術をご提案いたします。



東芝四日市工場 第5製造棟 (三重県)

規模 S造 地上7階 地下1階

延床面積 187,300㎡



京都市成長産業創造センター (京都府)

規 模 S造 (一部SRC造) 地上5階 地下1階 塔屋1階

延床面積 6,300㎡



トモエ乳業第二工場 (茨城県)

規 模 S造 地上4階

延床面積 20,407㎡



塩野義製薬医薬研究センター (大阪府)

規 模 S造 地上5階 塔屋1階

延床面積 44,000㎡



デンソー安城パワエレ評価棟 (愛知県)

規 模 S造 地上4階

延床面積 24,350㎡



フェザー安全剃刀関工場 (岐阜県)

規 模 S造 地上3階

延床面積 12,017㎡



エネルギープラント 地域冷暖房

Energy plant and district heating & cooling

エネルギーを取り巻く環境に向けて

「空気」「水」「熱」を組み合わせ、省エネルギーに配慮した環境に優しい空調システムを提供します。

エネルギーのベストミックスを目指して

今日、地球規模での環境問題が叫ばれている中、とくに地球温暖化への対策として温室効果ガス削減に向けた取組みが社会的責務となっています。

当社は、大規模施設へのコージェネレーションシステム(CGS)の導入や、地域冷暖房施設(DHC)などのエネルギー関連施設の建設に多数携わり、豊富な実績と高度な技術力を蓄積してきました。

また、昭和32年に日本で初めての原子炉である日本原子力研究所(現 日本原子力研究開発機構) JRR-1の原子炉空調

設備工事に着手して以来、50年以上にわたり原子力発電所の換気・空調システムを設計・施工してきました。

東日本大震災以降、緊急時の対応拠点となる免震重要棟の建設を始めとする各種安全対策工事に携わると共に、福島第一原子力発電所では廃炉に向けた対応工事や、作業員の方々の働く環境を守るための施設の建設にも携わっています。

当社は、これからも環境設備企業として環境・エネルギーソリューションを展開し、お客様と共に地球環境保全に貢献いたします。



中国電力(株)島根原子力発電所
免震重要棟(島根県)

(写真提供:中国電力株式会社)



横浜ビジネスパーク地域冷暖房 (神奈川県)

冷凍機設備容量	7,630RT
供給延床面積	223,000㎡
供給敷地面積	13.2ha

(写真提供: 神奈川新聞社)



京都リサーチパーク西地区 (京都府)

冷凍機設備容量	3,100RT
供給延床面積	70,412㎡
供給敷地面積	3.9ha



東京ミッドタウン (東京都)

冷凍機設備容量	10,100RT
供給延床面積	446,300㎡
供給敷地面積	6.89ha



神戸ハーバーランドエネルギーセンター (兵庫県)

冷凍機設備容量	10,000RT
供給延床面積	578,000㎡
供給敷地面積	22.6ha

企業活動

セグメント紹介

安全品質・環境マネジメント

身近な空調のはなし

ステークホルダーとの対話



リニューアル メンテナンス

Renewal and maintenance

“ワンストップサービス”で 最適な状態を維持

信頼できる専門技術、経験豊かな人材、多彩な実績により「メンテナンス&リニューアルサービス」に取り組んでいます。

定期的なメンテナンスと更新を提供

建物はおよそ60年の長期にわたる使用が可能ですが、その中にある設備の機能は腐食・摩耗などによる物理的劣化と、お客様のニーズの多様化、法改正、地球環境などによる社会的劣化により15～20年でその寿命を迎えます。そこで、設備の物理的劣化を防ぎ機能低下を最小限にするためには定期的なメンテナンスを欠かすことはできません。

また、社会的劣化を解決するにはリニューアルにより設備機能の向上を図る必要があります。

当社は、メンテナンスやリニューアル技術で設備機能の維持・向上を図り、お客様の大切な資産をお守りいたします。



霞が関ビル（東京都）

規 模	S造（一部SRC造） 地上36階 地下3階 塔屋3階
延床面積	152,223㎡



聖路加国際病院 (東京都)

規 模 SRC造 本館:地上11階 地下2階
旧館:地上7階 地下1階

延床面積 本館:60,730㎡ 旧館:25,819㎡



京都国立近代美術館 (京都府)

規 模 SRC造 地上4階 地下1階

延床面積 9,762㎡



三井本館 (東京都)

規 模 SRC造 地上7階 地下2階 塔屋1階

延床面積 36,225㎡



名古屋三井ビルディング本館 (愛知県)

規 模 S造・RC造 地上18階 地下2階
塔屋2階

延床面積 30,029㎡



海外

Foreign operations

アジアへ、そして世界へ

グローバル企業のお客様のアジア展開に「SNK品質」でお応えします。

更なる事業拠点を展開予定

当社は、海外市場において空調技術をコアに衛生・消火・電気設備はもちろん、プラント設備、ユーティリティ設備など幅広く手掛け、数多くのお客様のご要望にお応えしてきました。

その歴史は古く創業当時まで遡り、地域としてはアジアや中近東、東欧、アフリカなど36ヶ国に及びます。

現在は、三つの現地法人(上海、スリランカ、シンガポール)がアジア地域を中心に事業展開しており、2014年には、急激

な経済成長に伴う社会インフラ投資に呼応し、ミャンマー(ヤンゴン)にも営業拠点を開設いたしました。さらに今後、カンボジアへの展開を予定しています。

当社は、今年も更なる市場拡大が見込まれるアジア地域を中心に、お客様のお役に立つと共に各国の経済発展に寄与していきます。



上海津村製薬工場 (中国)

規模 RC造 地上5階

工事内容 空調(クリーンルーム・低温倉庫)、衛生、消火設備

延床面積 7,100㎡



揚州ユニ・チャーム工場 (中国)

同左 (集塵設備)

規 模 RC造 (一部SRC造) 地上3階

工事内容 空調、衛生、消火、二次側電気、生産設備 (集塵・圧縮空気・純水・排熱回収)

延床面積 103,410㎡



TOYOTA ショールーム兼修理工場 (スリランカ)

規 模 RC造 地上2階

工事内容 空調、衛生、消火、高圧給水、圧縮空気、
低圧、弱電設備

延床面積 5,860㎡

OZOコロomboホテル (スリランカ)

規 模 RC造 地上16階 地下1階

延床面積 11,000㎡

工事内容 空調、衛生、消火、低圧、弱電、
エレベーター設備



マリーナ・ベイ・サンズ (シンガポール)

規 模 RC造 地上56階 地下3階

工事内容 空調設備

延床面積 250,000㎡

企業活動

セグメント紹介

安全品質・環境マネジメント

身近な空調のはなし

ステークホルダーとの対話

安全・品質・環境 マネジメント

マネジメントシステムのさらなる実効性を追求しています。

マネジメントシステムの概要

労働災害・品質事故・環境汚染の予防を目的に、安全(OHSAS18001)、品質(ISO9001)、環境(ISO14001)のマネジメントシステムを統合し、実効性を高めることにより現場作業負荷の低減を目指しています。

技術本部長のコミットメント



取締役 上席執行役員
技術本部長

遠藤 清志

『お客様の信頼と満足』を得るには、顧客ニーズに応えられる、技術品質(安全衛生・品質・環境)の維持向上および強化が重要であり、労働災害・品質事故・環境汚染の予防に向けて、マネジメントシステムのさらなる実効性を高めていきます。

そこで、2015年度の技術方針は、「安全・品質管理の強化と再発防止」、「環境負荷の低減」を重点実行項目とし、この重点実行項目を実現するためには、「安全・品質重点管理項目の洗い出し」、「危険予

知・影響予知活動」、「現場パトロール」、「災害・事故の分析と対策」、「省エネ提案の推進」をキーワードに、基本に戻った活動を推進し、再発防止策の強化を行っていきます。

また、再発防止を含めた技術品質(安全衛生・品質・環境)に関する情報は、協力会社と一体になった『チームSNK』で共有し、労働災害・品質事故の低減を目指して活動していきます。

■2015年度技術方針

技術品質の強化(安全・品質・環境)

●安全・品質管理の強化と再発防止

- ・現場に即した**安全・品質重点管理項目**を洗い出し、災害・事故の具体的な対策を実施する
- ・**危険予知・影響予知活動**を実施し災害・事故を防止する
- ・管理職が率先して**現場パトロール**を実施し、災害・事故の芽を摘む
- ・再発防止のために**災害・事故の分析と対策**を行い、現場周知を徹底する

●環境負荷の低減

- ・省エネ提案を推進し、CO₂排出量を削減する
- ・資機材梱包材の縮減・減容化を行い、廃棄物量を削減する



環境活動

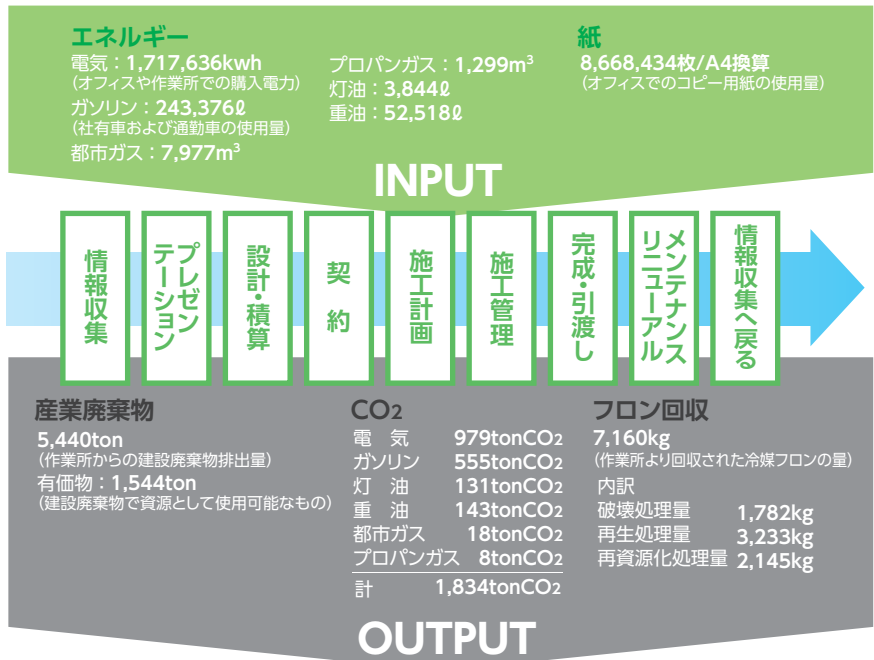
フロン類の適正処理、廃棄物削減など環境法令順守を確実に実施しています。

2014年度環境活動報告と評価

2014年度も、産業廃棄物の分別収集と、回収したフロン類の適正処理に鋭意取り組みました。

これからも、『フロン排出抑制法』(施行日:2015年4月1日)の主旨を踏まえた活動と共に、環境に配慮した取組みを継続します。

新日本空調のINPUTとOUTPUT



注記

- データ集計範囲は、新日本空調の本社、支店のオフィスと工事作業所としています。(海外工事は含みません。)
- CO₂排出係数
 - 電気 0.570: 電気事業連合会「電気事業における環境行動計画」(2014年9月)より
 - ガンリン 2.32: 環境省「温室効果ガス総排出量算定方法ガイドライン」(2015年4月)より

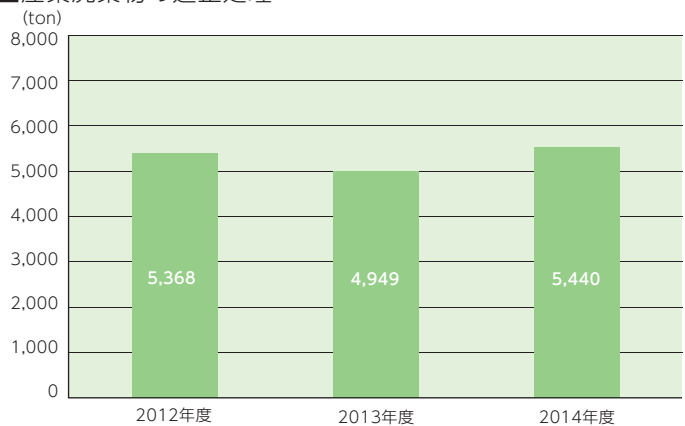
産業廃棄物の適正処理

2014年度の産業廃棄物は、5,440tonでした。「循環型社会」づくりを目指して分別収集を徹底し、3R活動を推進しました。

※3R活動

- ①Reduce: リデュース (発生抑制・持ち込まない)
- ②Reuse: リユース (再利用)
- ③Recycle: リサイクル (再生利用)

産業廃棄物の適正処理



フロン類の適正処理

環境汚染予防の一環として、回収したフロン類の再生や再資源化等、適正な処理が行われるよう努めています。

2015年度からは、『フロン排出抑制法』施行による管理者・整備者としての新たな責務をしっかりと踏まえ、地球温暖化防止に取り組みます。



フロン類の回収作業

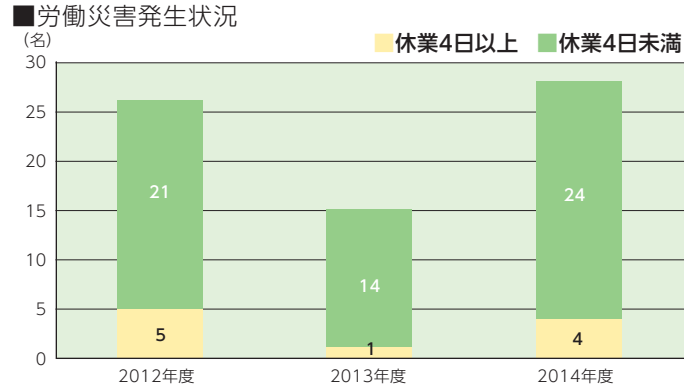
安全・品質・環境活動

現場に即した安全・品質重点管理項目を洗い出し、災害・事故の具体的な対策を実施しています。

2014年度の労働災害発生状況

2014年度の労働災害被災者数は28名でした。

管理職が、率先して現場パトロールを実施し、労働災害の目を摘む活動を行うと共に、再発防止のために災害分析と対策を行い、現場周知を徹底しています。



社長による現場巡視

2014年10月15日(水)、夏井社長による現場巡視を実施しました。

対象現場は、東京都渋谷区にある『(仮称)原宿リハビリテーション病院改修工事』の現場です。

「一般社団法人巨樹の会」の関連物件であり、当社は同会発注の医療施設に関し、全国で新築・改修共に多くの実績があります。今回の工事は、JR原宿駅の直ぐ近くにあった元麒麟(株)本社ビルをリハビリ病院に改修するというもので、開院後は回復期リハビリ病院(急性期を脱し在宅復帰を目指す状態)において病床数が日本一となる予定です。視察を終え、社長から現場所長に「お客様からの要望も多岐にわたり、苦労が多いなかで、良く考えられた施工がなされており感心する点が多々あった。最後まで無事故無災害で頑張ってください。」と激励の言葉がかけられました。



夏井社長(右側手前)

中国支店長による安全・品質パトロール

2014年10月29日(水)、中国支店長によるパトロールを行いました。

対象現場は、広島駅南口Bブロック第一種市街地再開発事業の中の遊技場『ナショナル会館新築工事』です。短工期現場で工事が錯綜し現場内が雑然とした状況の中、当日は高所作業車による作業を行っており、現場で決めたルールを守って作業・行動していることを確認しました。支店長から、配管工事のため建物外部に足場設営作業が予定されていることに関し、現場所長に計画書等の事前準備にも万全を期すよう指導がありました。また安全だけでなく品質に関する指摘もあり、作業手順書の周知状況にも重点を置き現場を巡視しました。中国支店は2007年10月から無事故・無災害記録を更新中(約213万時間)であり、今後も記録更新に向けて、支店・現場・協力会社が一丸となった災害防止活動を推進していきます。



田中支店長(左)、上野所長(中央)

※経営者トップによるパトロールは、他支店・事業部でも定期的に実施されています。

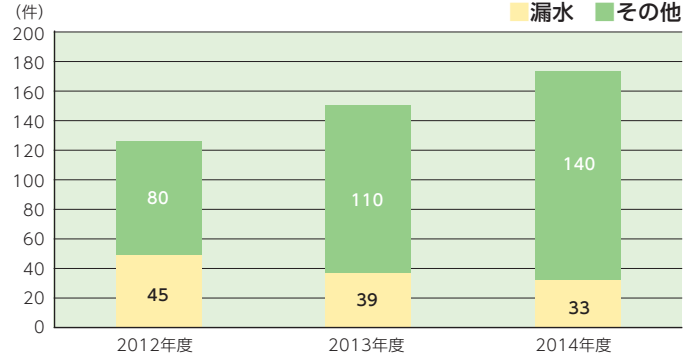


2014年度の苦情・事故発生状況

2014年度の苦情・事故件数は173件でした。

類似事故の再発防止を図るために現地KYでの「影響予知」活動の強化、管理職パトロールによるリスク摘み取りを強化し、品質向上に取り組めます。

■苦情・事故発生状況



Voice 体験学習を通じて

■チームSNKの大切さを実感 ～ダクト工場にて～



産業施設事業部

宇田川 洋一

(2015年度入社)

初めてのダクト製作工場、全てが自動化されているのではなく、人の手による作業が重要な役割を担っていることを興味深く見学しました。ダクト吊り込み体験では、ダクト本体が重たく感じられ、実際の吊り込み作業ではバランス感覚がとても大切になると実感しました。この作業をテキパキと進める職人の方々の目に、改めて職人の

方々は高度な技術を身に付けた存在だと思いました。施工現場は、人の手が非常に大きな部分を占めていますので、SNKと共に働いてくださる職人の方々に尊ぶ気持ちを大切に、職務に臨みたいと思います。



ダクト吊り込み体験(丸ダクト)



ダクト吊り込み体験(角ダクト)



手作業によるフランジ部製作

■現場での心構えを胸に秘め ～ダクト工場にて～



大阪支店

下釜 和也

(2015年度入社)

ダクトの製作過程を実際に見ることで、テキストではイメージすることが難しかった『はぜ』や『共板』の構造がどのようなものなのか、はっきり理解することができました。また、複雑な形状のダクトは製作が難しく、そのために“時間がかかり”“コストアップ

の要因”になるのだということを実感しました。私は、可能な限り無駄なダクト引き廻しを避け、施工図ではシンプルな納まりになるような工夫を心掛けて、現場の「安全」「品質」確保、そして効率向上等に貢献していきたいと思えます。



複雑な構造を理解



ダクト構造を知る

最新施工事例 ①

仙台市立病院新築給排水衛生設備工事

東北支店

東日本大震災の経験を活かした災害拠点病院



仙台市立病院



上質水製造装置 (RO装置)

1 建物用途

仙台市立病院は、一般外来、救命救急、夜間小児救急等に対応する総合病院です。また、免震構造を有し「災害拠点病院」として重要な役割を担っています。

2 建物概要

概要：延床面積：52,353m² (病院本館)、
1,389m² (厚生棟)、754m² (救急ステーション)
階数：地下1階、地上11階、塔屋2階
構造：RC造 (本館棟のみ免震構造)
病床数：525床
竣工年月：2014年7月

3 設備概要

■衛生設備

給水、雑用水、給湯、汚水、雑排水

■消火設備

スプリンクラー、泡消火、連結送水管、消防水利、不活性ガス (窒素)、移動式粉末消火、消火器

■医療ガス設備

酸素ガス、窒素ガス、笑気ガス、炭酸ガス、圧縮空気、吸引、感染吸引

■排水処理設備

感染系、検査・透析系、高温排水系

■厨房除外設備

病院本館厨房系、厚生棟レストラン厨房系

■RI設備

放射線科系

■厨房機器設備

電気熱源機器を基本に蒸気・ガスの複合熱源

■井水利用設備

上質水製造装置 (RO装置)にて井戸水を処理し、全館に供給

4 施工技術紹介

■災害時でのインフラの確保

給水システムは、東日本大震災の経験を活かし、災害時に市水道の供給が途絶されても独立して供給が可能なシステムとなっており、水源は全量を井水としています。2箇所の井戸を掘削して給水系と雑用水系に分け揚水し、各々の原水槽へ貯留します。給水系はろ過、滅菌後に上質水製造装置 (RO装置)にて処理し、受水槽から全館の給水、冷却塔補給水槽へ供給されます。雑用水系は、ろ過、滅菌処理のみとし、雑用水槽から院内のトイレ排水、散水用として供給されます。

また、給水システムは、様々な想定に基づく給水バックアップシステムを構築しています。

想定1：井戸水の断水または上質水製造装置が故障

→切替バルブにより市水を受水槽に供給

想定2：雑用水系ろ過器の故障

→切替バルブにて受水槽より雑用水槽へ上質水を供給

想定3：井戸水および市水の断水

→冷却塔補給水槽 (120m³) から雑用水槽 (420m³) にバックアップ後、雑用水槽から給水系原水槽へ汲み上げ、上質水製造装置で処理した後に全館へ供給

想定4：全ての供給源が途絶えた場合

→外部から給水車にて受水槽へ容易に補給するホース導入口を設置。同時に、排水が下水道へ放流できない場合に備え、地下1階に非常用汚水槽 (躯体利用：1,200m³) を設置 (7日分の貯留が可能)。また、非常用トイレの設置に対応できる専用排水枥を設置。

5 鉄道線路近接作業での安全確保に対する取組み

仙台市立病院の西側には、JR東日本の在来線と東北新幹線が平行で走っており、外部作業 (スリーブ・インサート工事) では風散・飛散対策に最大限配慮しました。資材・工具類などを蓋付ボックスに入れて現場に持ち込む手順を徹底し、さらに風散ネットで常に養生するルールとしました。屋外に設置した医療ガス用の液体酸素タンク (5.4m³) は、在来線の擁壁から6mしか離れておらず、JR東日本様の工事管理者と事前に入念な打合せを行い、搬入据付作業を実施しました。

Voice スタッフより



現場所長 石橋 敏将

東日本大震災の影響もあり、作業員・資材不足が続き、工程も厳しい中、協力会社および社員一丸となり2年8ヵ月、無事故・無災害で竣工引渡しができました。

霞が関ビルディング非常用発電機容量増、長時間化工事

リニューアル事業部

大規模オフィスビルにおけるBCP対策強化に対応した改修工事例



霞が関ビルディング

1 建物用途

霞が関ビルディングは国内最初の超高層ビルで、低層階に商業店舗が約30社、中高層階にオフィスが約120社入居するテナントビルです。

2 建物概要

階数：地上36階、地下3階、塔屋3階
延床面積：153,959m²
竣工年月：1968年（築47年）

3 設備概要

■熱源設備

霞が関ディーゼル・エイチ・シーからの冷水・蒸気受入れ

■空調設備

インテリア空調機+ペリメータ水熱源マルチパッケージ空調機

■発電機仕様

既設：ディーゼル発電機1,500kVA×2基
更新後：ディーゼル発電機3,000kVA×2基

■オイルタンク仕様

既設：12,000L×2基=24,000 L
増設：9,000L×9基=81,000 L
（合計：105,000 L）

■BCP運転時間：72時間

4 施工技術紹介

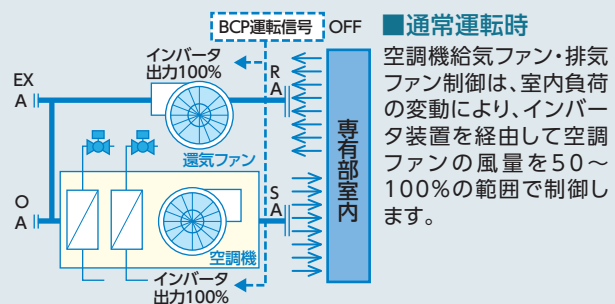
■BCP運転プログラムの導入

大規模災害の停電時において電力供給するビル機能として、防災設備、中央監視装置などのビル運用上不可欠な設備と、照明、コンセント設備などテナントの事業継続のために電力供給する設備の2つが挙げられます。空調設備は後者に位置付けられますが、発電機電力を優先して使用する設備の安定稼働に対応するため、以下の電力抑制用空調制御を導入しました。

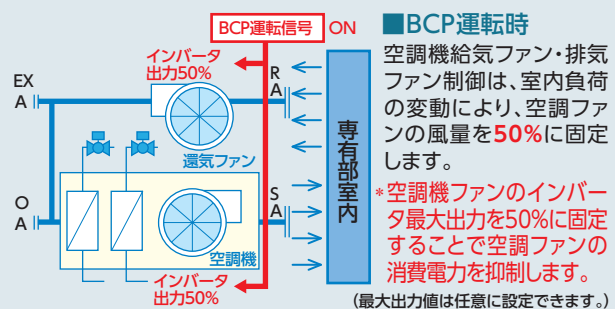
- ・ビル全館の空調設備（パッケージ、冷却塔、ポンプ）の運転台数を削減し、消費電力を抑制
- ・基準階空調機への冷水、蒸気の供給を停止
- ・基準階空調機の送風ファン、還気ファンのインバータ最大周波数を25Hz（最大出力の50%）とし、換気対応としての機能を保ちつつ空調ファンの消費電力を抑制

これらの制御により、BCP運転時の消費電力を通常運転時の約30%に抑制しました。

通常運転時



BCP運転時



Voice スタッフより



現場所長 佐々木 啓充

既設設備を生かしながらの工事のため、試運転調整には苦労しました。「チームSNK」一丸となって取り組むことで、ビル運用に支障なく竣工を迎えることができました。

最新施工事例②

中国電力株式会社本社ビル改修工事

中国支店

本社機能を維持しながら11年間に亘る改修工事により、大幅な省エネルギーを実現



中国電力株式会社本社ビル

1 建物用途

本建物は中国電力株式会社の本社ビルであり、主に中国地方の電力の安定供給を担う基幹的な機能と、本社としての事務所機能を併せ持った重要度の高いビルとなっています。

2 建物概要

延床面積: 35,550m² 構造: SRC造, S造
階数: 地下2階, 地上16階 竣工年月: 1987年3月

3 設備概要(改修後)

■熱源設備

- ブラインチャラー(270RT)+氷蓄熱槽(20,252MJ/日)
- 熱回収型スクルーチャラー(100RT)
- ヒートポンプチャラー(100RT)
- 氷蓄熱槽1,000m³
- アンモニア冷凍機(60RT)氷蓄熱ユニット

■空調設備

- エアハンドリングユニット単一ダクト方式+ファンコイルユニット

4 施工技術紹介

■省エネルギー技術採用

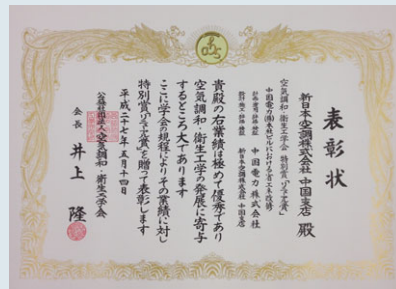
大温度差送水+変風量低温送風システムを採用し、省エネルギーと快適環境の構築を両立させています。

■環境負荷低減

氷蓄熱採用による負荷平準化の大幅な寄与と、アンモニア(自然冷媒)冷凍機導入による環境負荷低減を実現しました。改修後のエネルギー使用状況を把握するため、BEMSを導入し、運用改善を行いました。11年間の長期に亘る改修により、改修前に比べ建物全体の電力使用量で36%の削減実績を達成することができました。

5 平成26年度リニューアル賞を受賞

公益社団法人空気調和・衛生工学会より、居ながら改修工事を前提に長期的な改修工事の計画、実施、検証を実現したことを評価され、第3回リニューアル賞を受賞しました。



空気調和・衛生工学会
第3回リニューアル賞 賞状

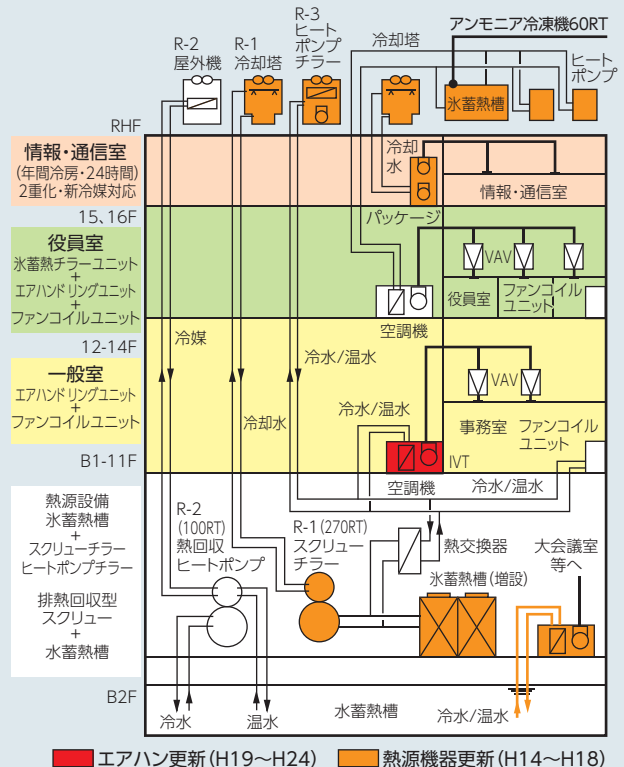
Voice スタッフより



現場所長 岩元 直紀

日常業務に支障の無いように週末工事主体で工事を行いました。中でも3連体を利用し400tトラックを組み立て、屋上へ熱源機器を搬入したことが印象に残っています。「チームSNK」で長期改修工事を無災害で進めることができました。

■更新後の空調システムフロー





中央区立明正小学校等複合施設改築工事(機械設備工事)

都市施設事業部

クールトレンチ+地中熱コイル 自然エネルギーを使った外気処理システムを導入



東京都中央区立明正小学校

1 建物用途

東京都中央区立明正小学校は、関東大震災の復興小学校として昭和2年に建設され、84年の歴史を刻み、地域の住民と子供たちのシンボルとして存在してきました。今回、歴史ある既存校舎を解体し、旧校舎の意匠が受け継がれた幼稚園、児童館を併設した新校舎に改築されました。

2 建物概要

延床面積：11,701m²
階数：地上6階、地下1階
構造：RC造
竣工年月：2014年7月

3 設備概要

■空調設備

GHPマルチエアコン28系統による個別空調

■換気設備

デシカント空調機111台による外気処理

■衛生設備

直結給水方式+受水槽方式併用、雨水再利用設備、プール濾過設備、ガス給湯器13台、電気温水器28台による給湯設備

■消火設備

屋内消火栓、連結送水管設備

4 施工技術紹介

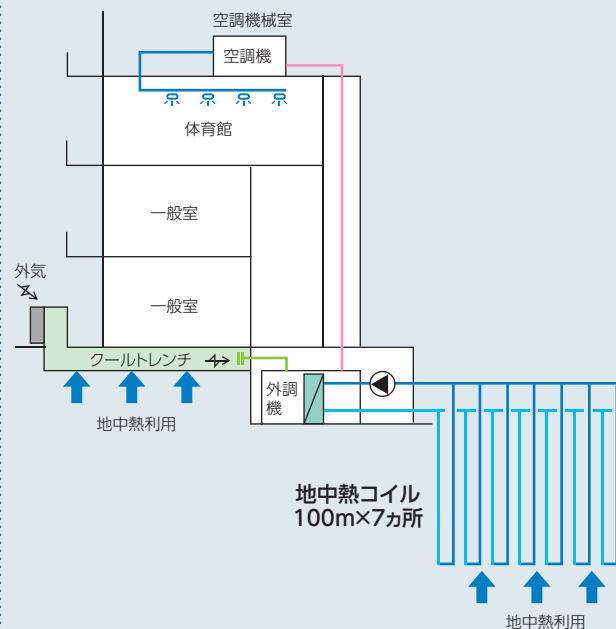
小学校3階の体育館空調用に直膨式の空調機を設置し、その外気の予冷/予熱に自然エネルギー利用設備を取り入れています。

外気は建物1階の外部に面したガラリより導入し、地下のクールトレンチを通過して外気処理空調機へ導かれます。

クールトレンチにより、外気温に対して2℃～5℃の温度改善を図っています。

また、外気処理空調機の熱交換器には地中熱コイルを利用した熱源水が循環しており、空気-水の熱交換を行うことでさらに2℃～5℃の温度改善を行って空調機へ給気されます。地中熱コイルとして小学校の校庭に深さ100m×7本のポリエチレン管チューブを敷設し、地中熱利用を図っています。

■システム概要



5 工程遵守への取組み

「2学期より新校舎で授業を行う」という当初の計画に対して、限られた工期に対する省人化・省力化工法や効率良い施工方法を当社、を含む関係会社にて検討・採用し、予定通り引渡しを行うことができ、9月の運動会を新校舎で開催していただきました。

Voice スタッフより



担当者 福田 昌史

本工事を行うにあたり、当社スタッフの若手職員は経験不足を日々の努力で補っていました。その努力はこれからの施工管理業務に大きく役立つものと確信しています。その努力もあって、公共性のある街のシンボルを無事故で竣工することができました。

企業活動

セグメント紹介

安全・品質・環境マネジメント

身近な空調のはなし

ステークホルダーとの対話

身近な

空調のはなし



快適な環境を創造すること。それが空調の大切なしごとです。しかし快適さは、空調の対象物によって大きく変わってきます。そんな空調の快適さを構成する4要素と、エアコンの効率的な使い方について紹介します。

空調の4要素

● 空気調和と快適さとは・・・

「空気調和」という言葉は英語のAir Conditioningに相当し、ある空間の空気状態を望まれる条件に調和させるという技術です。この空気調和を縮めて「空調」とよんでいます。

「望まれる条件」は対象空間の用途によって異なり、その空間が居室であれば人間にとって快適な空気状態であり、半導体工場のクリーンルームなどでは何よりも塵埃の無い清浄な環境が求められます。

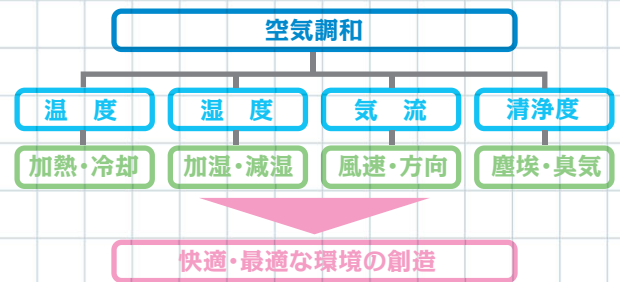
● 空気調和の4要素

空気調和が取り扱う、つまり調和させる要素は「温度」「湿度」「清浄度」および「気流」の4つです。高度な空調設備では4つの要素全てに対する要求条件を同時に満たす必要がありますが、簡易な空調設備では、例えば温度条件

だけの空気調和を図る事例もあります。

しかし、「室温はちょうど良いけれど、乾燥して喉が痛い」という状態では空気調和としては不完全です。人・動植物・機械・食品・薬品など、それぞれにとって快適・最適な環境を創造するのが我々の仕事です。

その建物・施設の用途に合った状態に4つの要素をコントロールし、最も望ましい状態を維持します。



エアコンの効率的な使い方

● 夏のエアコンと冬のエアコン

「エアコンといえば暑い夏に冷房として使うもの」といったイメージがありますが、エアコンは冬場の暖房に不向きであ

るかというところではありません。ただし、エアコンにも長所と短所があるため、季節ごとの使い方に工夫が必要です。

■ エアコンの長所と短所

長 所	短 所
冷暖房が始まるまでの時間が短い	空気が乾燥する
室内の空気が汚れない	風により不快さを感じることもある
必要な所だけを温めたりなど、多彩なコントロールが可能	室外機を設置するスペースが必要



部屋の中が外よりも暑いと感じたら 空気を入れ替えましょう

お部屋を閉め切って外出したあとなどは、部屋の中の温度が室外より高い場合があります。エアコンの運転をする前に、窓やドアを開けて部屋の中の熱気を逃がしてから、エアコンの運転を開始した方が節電につながります。空気の入れ替えは、風上と風下の2ヶ所の窓を開けると効果的です。

室外機の温度を下げましょう

夏場は、室内の熱を屋外に捨てる際に多くの電力を消費します。熱は室外機によって捨てられますが、室外機の周辺が直射日光や地面の照り返しなどで高温になっていると効率が低下します。

室外機を日陰に設置したり、すだれなどを利用して日陰を作るなど、涼しい環境に設置すると効果的です。

室外機の吹き出し口の空気の通りを 良くしましょう

エアコンは運転中、部屋の中の熱を屋外に捨てるために室外機が常に放熱しています。室外機のまわりに物を置くなどにより吹き出し口が塞がれると、熱風を再び吸い込んでしまい冷却効率が著しく低下します。室外機の前はできるだけスペースを空けて風通しを良くしましょう。

扇風機などで部屋の空気を循環させましょう

冷たい空気が下にたまるのを防ぐ効果の他に、人間は風がある状態では体感温度が下がることから、エアコンの設定温度を下げるよりもエアコンの風量を強くする方が電気代が少なくなります。

また、サーキュレーターや扇風機などで空気を循環させることも効果的です。その際は、扇風機の風は弱い風量でも続けてつけておくといいでしょう。

エアコンの風向きは下向きにしましょう

暖められた空気は天井近くにたまり、換気のために開けた窓や給気口から流れ込む冷たい空気、家のすきまから入り込むすきま風など、冷たい空気は足元にたまりがちです。エアコンの風向きを下向きにすることで足もとからムラなく暖房しましょう。

また、サーキュレーターや扇風機を天井に向けて動かすことで天井付近にたまった温かい空気を循環させましょう。その際、風が直接体にあたると寒く感じてしまうので注意しましょう。

部屋の湿度を保ちましょう

人が快適と感じる環境は、温度と湿度のバランスで決まります。暖房の設定温度が低めでも湿度が保たれていると設定温度が高めの時と同じ暖かさを感じることができません。快適で健康的な湿度は40～60%といわれています。

夜間はカーテンをしっかりと閉めましょう

日中はカーテンを開けて、日光を取り込むことで部屋を温めておきましょう。夜は窓のカーテンをしっかりと閉め、ガラスから逃げる熱を防ぎましょう。暖房の効率を上げるポイントは窓です。冬に室内から逃げ出す熱の約50%は、窓からというデータもあります。厚手のカーテンで、窓の上部や床との隙間を無くすと効果的です。

一年を通してフィルターの清掃はこまめに行いましょう!!

エアコン内部のフィルターが目詰まりすると、冷暖房効果が弱まります。フィルターの掃除は、こまめに行いましょう。フィルターのほこりは、掃除機で吸い取るか水洗いをします。フィルターの目詰りを防ぐため、ほこりを掃除機で吸い取る時は外側から、シャワーで水洗いする場合は裏側より水をあてましょう。

ステークホルダーとの対話

説明責任を果たし、積極的にコミュニケーションを図ることが、顧客や株主との良好な関係になると考えます。
新日本空調はすべての人との対話を大事にします。

人権・制度・人材育成・職場環境

柔軟性と多様性を持った人事制度と人材登用制度により働き甲斐のある職場づくりを推進し、グループ社員個々の「人間力向上」に努めています。



管理本部
人事部長

井上 聖

役割と成果に見合った処遇制度

新日本空調グループでは、10年以上に亘り目標管理制度を運用しています。これは職員一人ひとりが経営課題を共有し、目標を達成するという高い専門性を発揮できる人材を育成することがその狙いです。2014年4月からは、役割と成果に見合った、より公正でメリハリのある処遇とするための人事制度を導入しています。

その基本的考え方は右のとおりです。



果たす役割に応じた加点主義

新日本空調グループは、すべての職員が当事者意識を持ち、それぞれの立場に応じて主体性を発揮するため、果たす役割に応じた手当を支給しています。部下の育成と労務管理上の責任を負う管理職に管理職手当を、管理職としてではなく実務のエキスパートとして認められた職員にエキス

パート手当を支給しています。人材育成をはじめとしたマネジメント能力と、実務における高い業務遂行能力の発揮といった、会社が期待するそれぞれの役割を担うことで、やりがいと誇りを感じることができる制度となっています。

若手職員の育成

職員は最も重要な財産であり、その育成・人材開発は絶え間なく取り組むべき重要な経営課題です。研修の機会を提供し、社員が自分自身のキャリアを考え、自己実現を目指して行う努力と自己啓発を支援しています。

新入社員については基礎教育を強化すべく、2015年度から新たに「現場研修」制度をスター

トしました。

従来の研修に代わり実施しているこの研修は、「学び」の場であることに重きを置き、基礎力を身につけるだけでなく、業務の習得意欲を高めながらやりがいを感じてもらうことを目的としています。



■多岐にわたる実務研修

技術系の新入社員は、分野(新築・リニューアル・産業系等)の異なる2つの施工管理現場および設計現場にて研修を実施します。研修先の施工現場は事業部門の枠にとらわれることなく、新入社員の研修先として相応しい現場を選定しています。基礎教育を身につけるだけでなく、分野毎の違いや様々な先輩職員の技法を知る機会とすることも狙いとしています。

また、営業・管理系については幅広い視野を持った人材になってもらいたいという考えから社内業務全般を理解する期間とし、施工管理現場など、様々な分野で研修を実施しています。

■適性を知る

新入社員の現場研修中は、研修の進み具合・悩み・業務の適性などを確認するため、人事部員との面談が実施されています。実務経験・面談などを通し、新入社員の適性を知り、現場研修終了後の配属先を決定します。

また、新入社員の不安や悩みを解消することによって、早期に戦力となる人材の育成に力を入れています。



実践的な施工管理業務を経験



先輩職員から丁寧な指導と基礎教育



ダイバーシティの推進

少子高齢化社会の進行など、社会環境の変化に対し、人事制度をはじめとする会社の考え方も柔軟かつ多様性が必要です。人間力向上を標榜する新日本空調グループでは、職員

の多種多様な価値観を取り入れ、活用していく取組みを行っています。

■定年再雇用者活用への取組み

新日本空調グループでは、定年再雇用制度を導入しており、ベテランの経験と実績を活かした活用をしています。また、再雇用者の社内呼称を「参事」とし、長年培ったノウハウや人脈など、新日本空調のDNAが途切れてしまうことがないよ

う活躍の場を拡げ、業務を通して後継者への伝承を図っています。再雇用勤務の希望者には、期待されている役割を知ること、60歳以降のキャリアプランを作成することを目的とした研修を実施しています。

◎女性の活躍を推進

新日本空調グループでは、性別にかかわらず、意欲と能力のある人材を積極的に登用しています。2013年10月には、念願の女性管理職が3名誕生しました。

コミュニケーション

協力会社と一丸となった“チームSNK”としてコミュニケーションを深めています。

2015年度“SNK匠”を認定

～ 三現主義と技術の伝承で安全・品質活動の向上を ～

2015年4月17日(金)、平成27年度「本社・首都圏地区安全衛生大会」で「優秀技能者“SNK匠”」の認定を行いました。今年度の“SNK匠”認定者は4名で、各事業部門から推薦を受けた協力会社の技能者の中から厳選された方々で、2008年度の制度創設から累計して31名を優秀技能者として認定しました。当社は、協力会社と一体となった『チームSNK』で三現(現場・現物・現実)主義ののっとり、安全・品質活動の向上に日々取り組んでいます。今年も、現場最前線で他の模範となり、技術の伝承の担い手として『チームSNK』を支える優秀な技能者を“SNK匠”として認定し、夏井社長自らがこれまでの功績を称え、更なる活躍を祈念しました。今後も、「優秀技能者“SNK匠”」を認定することにより、その栄誉を称え、現場最前線の安全文化と技術を伝承し、安全品質の向上を図って参ります。



認定者(左より)
大阪支店・増田工業(株)井高克也さん、
都市施設事業部・東日機工(株)佐藤友則さん、
原子力事業部・宮城精器(株)阿部辰実さん、
名古屋支店・クリーンテクノ(株)川岸祥高さん
(中央は夏井社長)

盾と認定書が授与されます

平成27年度「東北支店 安全衛生大会」を開催

2015年5月15日(金)「東北支店 安全衛生大会」が、ホテルメトロポリタン仙台(JR東日本グループ)で開催され、当社職員および協力会社の方々118名が参加しました。高橋支店長より、「ちょっとした気のゆるみ、確認不足の災害要因を摘み取るために現場に携わる全ての方が知恵を絞り、協力し、現実に取り組むことが重要である。『チームSNK』を更に推進し成果を实らせ、より一層結束力の固いものとして全現場で再発防止に取り組んでいきます」と、力強い安全活動方針が示されました。

また、来賓に航空自衛隊 松島基地より細野安全班長を迎え、「航空自衛隊の安全管理について」の講話をして頂きました。ブルーインパルス・パイロット疑似体験シアター(DVD)では、時速700キロ以上のスピードで編隊が1メートルの距離まで接近して飛行する体験ができました(トップガンのトム・クルーズになったようでした)。また、平成11年、12年の2年間で13名の方が死亡された教訓を10項目にまとめた「良き安全文化が形成されている部隊の特徴」では、第一番目に「指揮官の積極的関与」が挙げられており、安全の根底を支えるのは隊員一人ひとりの意識と行動である⇒指揮官の安全管理に関する態度および指導に強く感化されるとのお話から、改めて「経営トップが自ら現場に出向き指導することが重要である」と認識しました。



航空自衛隊松島基地 細野安全班長



2014年度技術発表会を開催

～ お客様ニーズにお応えする「SNK技術品質」の提供を目指して ～

2014年11月27～28日、技術発表会を開催しました。この発表会は、当社の技術を維持し発展させること、そして成果を水平展開していくことを目的に、全事業部門、新日空サービス、新日本空調工程(上海)有限公司とTV会議システムでの配信を含め延べ150名以上が参加し、23テーマの発表について活発な質疑や意見が取り交わされました。

発表テーマは、最新の設計施工事例(大型オフィス、放射空調、消火システム、超低露点空間、製剤工場、実験動物生

産施設、食品冷却システム)、当社開発品の導入事例(Energy Quest®、Ag-ion Master®、CPCS-Ⅲ、パラレルアイF)、最新技術トレンドであるBCP対策、現場でのBIM活用、現場ICT活用事例等が報告されました。

また、技術開発関係では、地中熱利用、結露シミュレーション、局所低露点化、工場スポット空調、ケミカルフィルタ性能評価、コイル凍結防止対策、軸受診断手法が発表され、活発な質疑応答と意見交換を行いました。



技術発表会の様子

社会貢献活動

「良き企業市民」として、ステークホルダー（顧客、株主、協力会社、職員および家族、地域社会等）とのコミュニケーションの活性化を図ると共に、芸術文化・スポーツ・教育・福祉などの振興を継続的に支援してまいります。また、職員のボランティア活動への参加を支援しています。

三井広報委員会の活動に継続参加

新日本空調は三井グループの一員として、1991年から「三井広報委員会（メンバー会社：24社、特別会員会社：1社）」の活動に参加しています。

同委員会は、1972年に設立され、三井グループ各社がまとめ、さまざまな文化活動および広報活動を通じて、国際交流や地域社会の活性化に貢献すると共に、社会の繁栄と福祉に寄与することを行動理念としています。

■「三井ゴールデン・グラブ賞」の提供と「三井ゴールデン・グラブ賞野球教室」の開催

同委員会では、毎年プロ野球セ・パ両リーグの守備のベストナインに贈られる「三井ゴールデン・グラブ賞」をこれまでに43回提供しています。また、2010年度からは、「三井ヒューマンプロジェクト」の一環として同賞受賞歴を持つ元プロ野球選手4名（投手、捕手、内野手、外野手）とコンディショニングコーチを講師に招いて、少年野球の指導者を対象とした「三井ゴールデン・グラブ賞野球教室」を全国各地で11回開催しており、傷害予防法や守備を中心とした基本技術と指導方法など、将来を担う子供たちが楽しんで野球に取り組める環境づくりをお手伝いしています。

三井広報委員会の沿革・活動内容については、同委員会のホームページ（<http://www.mitsuipr.com/>）をご覧ください。（写真提供：三井広報委員会）



2014年12月3日(水)
都内のホテルにて開催された「第43回三井ゴールデン・グラブ賞」授賞式



2014年9月6日(土)
福岡市・福岡工業大学塩浜総合グラウンド野球場(FIT スタジアム)にて開催された「第10回三井ゴールデン・グラブ野球教室」



2015年3月14日(土)
千葉市・稲毛海浜公園スポーツ施設(野球場・室内練習場)にて開催された「第11回三井ゴールデン・グラブ野球教室」



福島県南相馬市・東日本大震災復興支援ボランティア活動報告

2014年11月29日(土)～30日(日)の2日間、通算18回目(2014年度3回目)となる福島県南相馬市での復興支援活動に当社の有志6名が参加しました。

今回当社の参加者に割り当てられた作業は、①小屋の解体(瓦礫・廃材の分別まで)、②伐採された草の袋詰め作業、③畑の草刈りと木の伐採、④道路の草刈り、⑤個人宅の庭の枝木剪定と草刈りです。1日で複数の依頼場所での作業をこなす必要があり、移動時間や段取り片付け時間など、目に見えない手間も多くありましたが、センターでの必要な道具の積み込みから移動、作業場所でのミーティング、実際の作業、そして後片付けといった流れを皆でテキパキと行い、2日間で依頼された作業をほぼ完了することができました。

また、2015年4月18日(土)～19日(日)にも、当社の有志が福島県南相馬市での復興支援活動に参加しました。

震災から4年余りが経ちましたが、今後もこの活動を継続していきたいと考えています。



道路の草刈り作業の様子



4月に参加した有志メンバー



三栄会「森林環境プログラム」に参加

2014年5月31日(土)、九州三栄会(三井物産関連企業の交流会)がCSR活動の一環として実施している「森林環境プログラム」に、当社九州支店の有志が参加しました。

今回は、三井物産所有の大分県城ヶ岳山林にて、桧の間伐作業と椎茸の植菌(ほだ木への菌の打ち込み)を体験しました。間伐は、直径25cm、高さ18m程度の桧の根元に、交代で‘のこぎり’で切り込みを入れ、ロープで引き倒す作業です。また、植菌は、原木に直径7mm程度の穴をドリルであけ、そこに駒菌を打ち込む作業です。参加者は、森林への手入れの重要性を実感すると共に、森林浴で心身共に癒され、気持ちよく作業できました。



切り込み作業



椎茸の植菌作業

茅野研修所で「ホタル観賞会」を開催

2014年7月20日(日)19:00より、当社茅野研修所(長野県茅野市)と隣接する自然郷別荘地の地権者の会の共催で「第3回ホタル観賞会」を開催しました。

当日は、当社社員およびご家族の皆さん10名と、別荘地の方々20名の計30名が参加。全国ホタル研究会名誉会長の大場信義氏(理学博士)による“観賞のマナーや観察のしかたなど”についてのお話を拝聴した後、当社茅野研修所近くの生息地(休耕田)で観賞しました。

暗闇の中で“ゲンジボタル”と“ヘイケボタル”が行き交う光景は、やはり何度見ても素晴らしく、心が鎮まり癒されるひと時を過ごすことができました。



夜になるとホタルが舞う生息地の様子(昼間)

名橋「日本橋」橋洗いに参加

2014年7月27日(日)、「名橋『日本橋』保存会」が主催する第44回名橋「日本橋」橋洗いが開催され、当社から20名(家族含む)がお揃いの半纏(はんてん)をまとって参加しました。

1603年に初代が建設されてから400年以上の歴史を誇る重要文化財・日本橋(現在19代目)の上に、地元町内会および約100社の企業などから合計約1,650名が参加し、デッキブラシやタワシなどを使い1年ぶりに日本橋を清掃しました。

この橋洗いは日本橋の美化保存を目的とする毎年恒例の催しで、当社を含む三井グループ企業の多くが会員企業である「名橋『日本橋』保存会」が主催しており、日本橋の伝統が感じられる夏の風物詩となった社会貢献活動です。



名橋「日本橋」橋洗い参加メンバー

事業部紹介 **首都圏事業本部 産業施設事業部**

多様化するお客様のニーズに 高い技術力で的確にお応えする ～お客様と地球環境と共に歩む～

産業施設事業部の人員は60名、管轄エリアは一都六県(東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城・群馬・栃木)と甲信越地方(山梨・長野・新潟)であり、環状に点在する工業団地に対して九つの拠点事務所(神奈川・柏崎・長野・八王子・朝霞・清瀬・深谷・茨城・茂原)を配置。拠点事務所を核として、その地域のお客様に「SNK品質(超信頼品質)」を提供させていただいております。

また、全国規模のお客様に対しては、母艦機能を発揮して全国の支店・事業所の営業・設計・施工の支援をしています。一方、海外現地法人からは技術研修生を毎年継続して受け入れ、「SNK品質」を海外の現地スタッフへも伝承しています。

空調設備の中でも工場などの生産設備を対象とする産業空調では、空気の温度・湿度・清浄度などがそのまま製品の歩留りに影響します。そのため、電子デバイスであれ、食品であれ、医薬品であれ、その製造環境には厳しい条件が要求されます。この要求に対して、「微粒子可視化技術」などの独自の技術と、高い信頼性のある種々のシミュレーション技術を活用し、お客様にご満足いただける最適な製造環境を提案しております。

また、産業施設建設のスペシャリストとして、低コスト・高品質・短工期をさらに促進し、温室効果ガス削減にも貢献しております。



オリンパス技術開発センター宇津木



東芝柏崎工場



雪印メグミルク阿見工場



決起集会



「やってやろうじゃないか!」の会



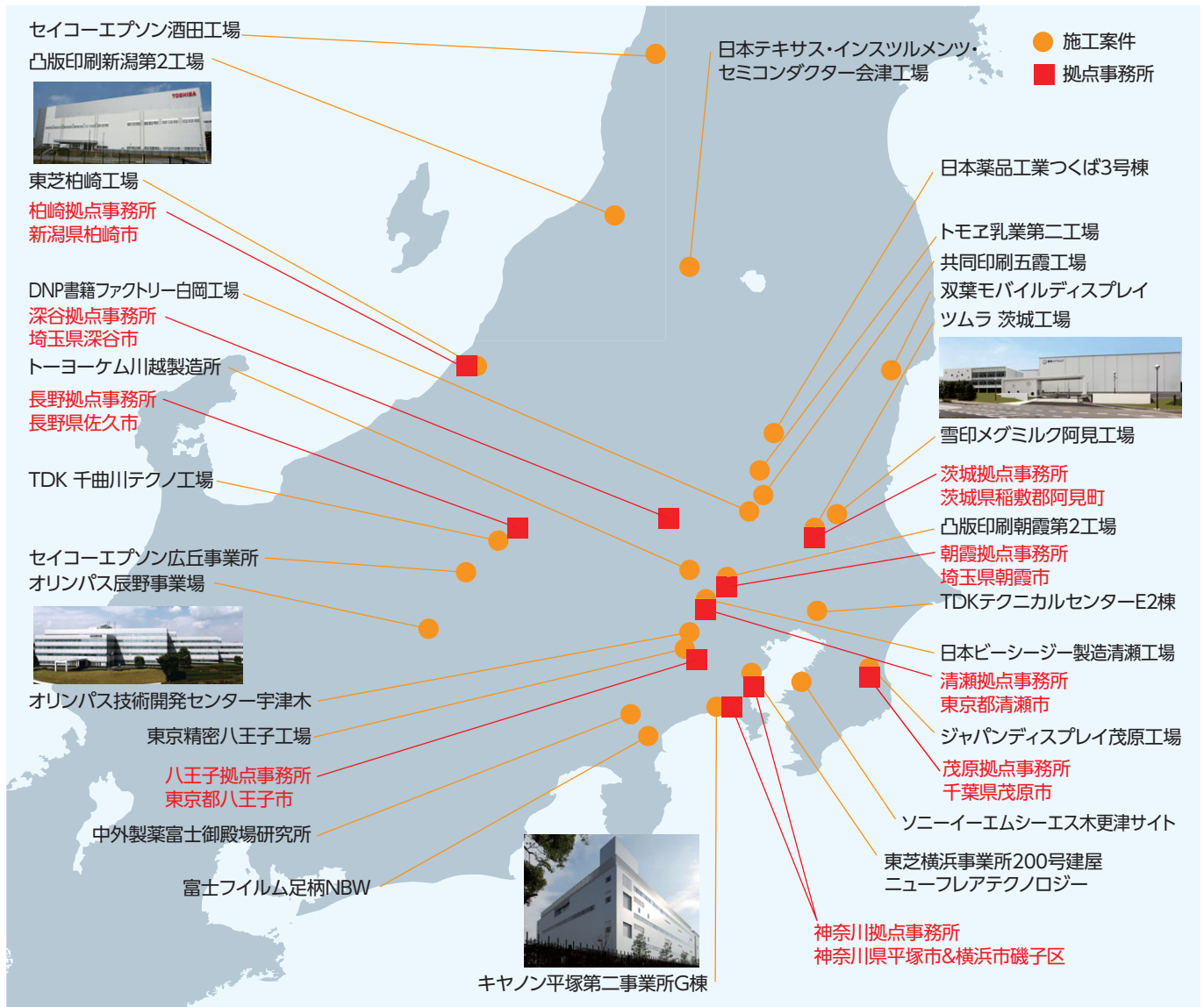
キヤノン平塚第二事業所G棟

(写真提供:キヤノン株式会社)





■主要工場の施工実績



産業施設事業部は、1991年に発足した東京本店産業施設統括部を前身に、2001年に事業部として誕生しました。当社は日本の原子力や半導体技術の開発当初からクリーンルームに携わってきた斯界の先達であり、その諸先輩方の気概と精神を脈々と引き継ぎ、特に半導体産業の急速な伸長と共に、四半世紀の歴史を刻んできました。また、当初はお客様の海外進出と共に、東南アジア諸国にも多くの施工実績を残しました。近年は半導体工場に代表されるインダストリアルクリーンルーム(ICR)だけでなく、HACCP(Hazard Analysis & Critical Control

Points)【危害要因を分析(HA)し、重要な管理点(CCP)を断続的に監視・記録する行程管理システム】に適合した食品工場や、GMP(Good Manufacturing Practices)【医薬品および医薬部外品の製造管理および品質管理の基準】に適合した製薬工場などのバイオリジカルクリーンルーム(BCR)にも多くの施工実績があります。

多様化するお客様のニーズに、その実績に培われた高い技術力で的確にお応えする、お客様と地球環境と共に歩む、これからも産業施設事業部に期待ください。

Voice 意気込みは「やってやろうじゃないか!」

産業施設事業部発足以来25年目を迎え、気がつくとその道一筋で歩んできました。日本のみならず東南アジアの「モノづくり」を「SNK品質(超信頼品質)」で支える部隊です。製品製造を取り巻く空気の質や成分のエンジニアリング集団を支えているのは、ご家族の理解とおお客様の応援です。

関東甲信越地域を中心として全国を渡り歩きながら、人に触れ合い、美味しい物を食べ、美味しいお酒に出会い、先端技術を含む産業界の「モノづくり」に携われることは、私達の誇りです。これからも、「Made in JAPAN」「Made by JAPAN」に貢献してまいります。



執行役員 産業施設事業部長 松浦 正志

学会賞

数々の学会賞が物語る、新日本空調の技術

「学会賞」の受賞。それは90年以上にのぼる歴史を持つ空気調和・衛生工学会（会員約1万6千人）が、毎年1回、空気調和衛生分野で技術と研究の向上に貢献する優れた設備に与える、伝統ある輝かしい賞のことです。

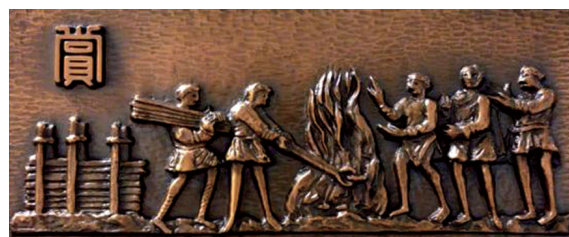
新日本空調と学会賞

新日本空調は、昭和38（1963）年の第1回受賞以来、すでに31回に亘って「学会賞」を受賞してきました。

これは私たち新日本空調が、理想的な社会環境の創造に取り組んできた姿勢と、それを支える技術力の「証し」といっても過言ではないでしょう。

そして、この実績が信頼を生み、その信頼がまた新たな実績を生み出していくのだと、私たちは考えています。

広く社会の居住環境・都市環境など、人間生活の向上に貢献するよう、これからも一歩ずつ確実に足跡を残したいと考えております。



1963年 第1回 技術賞 (昭和38年)	東京文化会館 音楽ホールの換気空調システム
1965年 第3回 技術賞 (昭和40年)	中電ビル ヒートポンプと二重ダクト方式による空調システム
1966年 第4回 技術賞 (昭和41年)	ホテルニューオータニ インダクションユニット方式による超高層ホテルの空調システム
1968年 第6回 技術賞 (昭和43年)	パレスサイドビル 二重ダクト方式による空調システム
1970年 第8回 技術賞 (昭和45年)	霞が関ビル インダクションユニット方式による超高層ビルの空調システム
1971年 第9回 技術賞 (昭和46年)	全共連厚木事務センター 地域冷暖房による計算センターの空調システム
1974年 第12回 技術賞 (昭和49年)	東亜不動産新橋ビル 深夜電力利用と熱回収ヒートポンプによる省エネルギー空調システム
1975年 第13回 技術賞 (昭和50年)	大阪大林ビル 熱回収と4管式ファンコイルユニット方式による超高層ビルの空調システム
1976年 第14回 技術賞 (昭和51年)	新宿三井ビル VAV方式による超高層ビルの空調システム
1977年 第15回 技術賞 (昭和52年)	新宿新都心地域冷暖房施設 超高層ビル群を対象とする地域冷暖房システム
1983年 第21回 技術賞 (昭和58年)	エンジンヒートポンプシステム ガスエンジンヒートポンプシステムの開発と実用化
1986年 第24回 技術賞 (昭和61年)	大正海上本社ビル VAV方式による省エネルギー空調システム
1987年 第25回 技術賞 (昭和62年)	柏ゴルフ倶楽部クラブハウス 総合ヒートポンプによる冷暖房・給湯システム



東京文化会館



新宿三井ビル



1991年 第29回 技術賞
(平成3年) **鹿島KIビル**
オープンアトリウム香り空調等を入れたインテリジェントビルの空調システム

第5回 技術振興賞 **建築設備配管用可搬式転造ねじ切機の開発**

1994年 第8回 技術振興賞
(平成6年) **聖路加国際病院**
病室の居住性向上を図る空調技術

1995年 第33回 技術賞
(平成7年) **サッポロファクトリー**
積雪寒冷都市型アトリウムの環境・エネルギー計画

1996年 第10回 技術振興賞
(平成8年) **東京都江戸東京博物館**
大空間展示室の空調技術

1998年 第36回 技術賞
(平成10年) **DNタワー21**
二重サッシ換気システムおよび二重ダクトVAV方式

2002年 第16回 技術振興賞
(平成14年) **千葉市中央図書館・生涯学習センター**
閲覧室の空調技術

ラグザタワー
地球環境・都市環境にやさしい設備計画

2003年 第41回 技術賞
(平成15年) **セイコーエプソン豊科事業所 第2工場棟**
周辺環境に配慮した省エネルギー工場

2007年 第21回 技術振興賞
(平成19年) **セイコーエプソン千歳事業所**
寒冷地の特性を活かした
「開放式冷却塔でのフリークーリング」

秋葉原ダイビル
電力・ガス・氷蓄熱方式のベストミックスによる
高効率システム

御蔵入交流館(田島町総合文化・保健複合施設)
対流式併用放射冷暖房システムによる良好な快適性

2008年 第22回 技術振興賞
(平成20年) **仲谷マイクロデバイス本社工場**
半導体後工程生産工場における
省エネルギー熱源・空調システム

2012年 第50回 論文賞
(平成24年) **熱源システムのモデリングによる
ポンプ可変速制御方法**
異なる機種・容量の熱源機器が混在するシステムや、
可変流量対応機器と定流量機器が混在するシステムに
おいても、単式ポンプ方式の採用を可能とする制御方法

第26回 技術振興賞 **会津オリンパス株式会社拡張工事**
冷水蓄熱塔と冷熱源設備の運転改善という拡張工事前
との実績比で約40%のCO₂排出量削減を達成

マルイト難波ビル
経済性向上と信頼性の高いエネルギーセキュリティを
実現し、さらに災害時の防災拠点としても機能するホテル

2014年 第2回 リニューアル賞
(平成26年) **名古屋三井ビルディング本館における省CO₂改修**
既存システムの実態把握・問題点を抽出し改修計画を立案
テナントビルという複雑な施工条件の中、省エネ・省CO₂を実現

NEW

2015年 第3回 リニューアル賞
(平成27年) **中国電力株式会社 本社ビルにおける省エネ改修**
劣化診断調査に基づき長期改修計画を策定し、
11年に亘る省エネ改修で、約36%の省エネを実現



東京都江戸東京博物館 (写真提供: 東京都江戸東京博物館)



会津オリンパス株式会社

NEW



中国電力株式会社 本社ビル

企業活動

セグメント紹介

安全品質・環境マネジメント

身近な空調のはなし

ステークホルダーとの対話

社外ステークホルダー・インタビュー

鉄道博物館3つのコンセプト 「鉄道」「歴史」「教育」のキーワードは【体感】



1階 展示車両群 (写真提供: 鉄道博物館)

■ 鉄道博物館のコンセプトについて お聞かせください

埼玉県さいたま市大宮区大成町にある「鉄道博物館」(通称: てっぱく)は、2007年10月14日に、JR東日本創立20周年記念事業のメインプロジェクトおよび交通博物館(神田須田町に置かれ2006年5月に閉館)を引き継ぎ、発展させる形で開館しました。当初は開業1年で180万人程の入館者があり、2014年には入館者700万人を達成しました。今年、北陸新幹線・上野東京ライン開業によるイベントを開催しました(6月21日終了)。JR東海の「リニア・鉄道館」、JR西日本の「京都鉄道博物館」の2016年春開館予定など、現在の鉄道ブームの火付け役になったのではないのでしょうか。「鉄道博物館」の3つのコンセプトとは、①近代化の一翼を担ってきた、鉄道に関わる遺産・資料を体系的に保存し、調査研究を行う「鉄道博物館」、②鉄道システムの変遷を、それぞれの時代背景を交えながら産業史とする「歴史博物館」、③鉄道の原理と仕組みと最新(将来構想を含む)の技術について、子どもたちが、模型やシミュレーション、遊戯器具等を通して体験的に学習する「教育博物館」の3つです。明治以降の日本の近代化を牽引してきた鉄道というものを見せたい、伝えたい博物館として“大人”にも十分楽しんでいただけたらと考えており、実際に運転していた車両などの実物を触って、体感することができるのは、他の博物館との大きな違いだと思います。貴重な展示品、歴史的に重要な展示物を体感していただきたいと考えております。

今回のステークホルダー・インタビューは、公益財団法人 東日本鉄道文化財団「鉄道博物館」大信田 尚樹 館長に、「鉄道博物館」の概要・特徴等について、過去・現在そして未来へと続く「鉄道博物館」の魅力について、お話しいただきました。

■ 鉄道博物館の見所をお教えてください

この博物館は“アカデミック”な部分と“エンターテインメント”性を持たせた部分をはっきり意識して、作られています。2階ステンドグラス前からの展示車両36両の車両群を見下ろす眺望は必見です。このエリアには、明治時代初期から現代まで、その時代を物語る車両を展示しています。通常はあまり見ることができない台車や床下機器などを見ることもできます。一部車両はプラットホームに停車するように展示しており、車両を見たり、車内に入ることもでき、“アカデミック”な一面を代表する展示エリアとなっています。次に、2階エントランスゾーンの一部にある模型ジオラマは圧巻です。鉄道をテーマとしたHOゲージのジオラマとしては国内最大級で線路総延長は約1,400mあります。こちらは“エンターテインメント”性の非常に高い展示といえるのではないのでしょうか。また、運転シミュレーターの模擬運転、更に、ミニ運転列車は本来の鉄道と同じ仕組み(加速する・減速する・停止信号では動かない)で運転することができます。決して遊具ではありません。

最後に、4階パノラマデッキからは屋外が一望でき、新幹線・京浜東北線・高崎線・貨物列車そして埼玉新都市交通(ニューシャトル)といった実際の車両を見ることができます。是非この素晴らしい眺望を体感ください。



2階 模型ジオラマ



2階 ステンドグラス



■ 経歴と人生訓についてお話しください

旧国鉄時代は列車の運転・車両メンテナンスおよび列車ダイヤ作成の業務に従事していました。“運転畑”での経験しかありませんでしたが、15年前に関連事業への転身となり、岩手県八幡平スキー場・リゾートホテル、大森駅ビル(旧プリモ)、宇都宮駅ビルの経営に携わってきました。最初に従事した八幡平スキー場での主な業務は“閉鎖”という仕事でした。会社の引き受け探しはもとより、従業員の今後の身の振り方に関してはたいへん難しい仕事でした。駅ビル経営に携わった後、再び鉄道事業に戻ることとなり、埼玉新都市交通(ニューシャトル)に8年勤務いたしました。この鉄道は、日本では10社程しかないゴムタイヤの鉄道で、中規模輸送を目的とした鉄道会社であり、在任中にこの鉄道博物館の開業が大きく影響し、業績を30%UPさせることができました。そして、2014年6月27日に現在の職に就くこととなりました。現在の業務では、国民の財産(歴史的価値のある展示物)を保存・管理・展示させていただいていることが一つの使命であると感じています。触れることができる。体感できる。感動できる。ガラスケースに展示品を陳列しているだけ(それでも十分価値はあるのですが)の博物館とは本質的に異なる博物館であります。また、館内巡回の際に、毎日のご家族がお子様連れで入場され、一緒に見学をしたり、昼食をとったりしている「家族の幸せ」に触れることが多く、仕事に最もやりがいを感じる瞬間となっています。ゴルフをしたり、ジムに通ったりする趣味は現在封印し、この博物館を永く皆様に愛され続けるよう運営していくことに専心しています。

■ 鉄道博物館の将来像についてお聞かせください

鉄道博物館について現在心掛けていることは、来館者に愛されて永く安定して運営していくことへの注力です。そのためには、職員の人材育成これが非常に重要であると考えています。東日本鉄道文化財団の職員20数名、JR関連企業主体の職員やボランティア300名が現在の人員数です。博物館の安定した経営のために、過去の体験・経験の中で役立つことはどんなことでも伝えていきたい、少しでも良い方向に進めていきたいと考え、職員には毎日のように朝礼で話をしています。

将来的には、展示スペースを拡張する計画も進行しています。基本コンセプトに沿って、体感できる博物館。“アカデミック”と“エンターテインメント”の両面を持つ博物館。この博物館を通して、JR東日本の鉄道を通じた社会貢献に携わることが館長としての使命であると思っています。

■ 新日本空調のイメージは如何でしょうか?

館長就任後日が浅いため、特筆すべきエピソードはまだありませんが、大手の設備エンジニアリング会社と認識しており、安全・安心・高品質の面で頼りになる印象です。これだけの大空間を、夏は冷房・冬は暖房と、1階から最上階まで均一な環境を作り出している。これは本当に素晴らしい技術力であると思います。展示品に対する影響にも配慮が行き届いていることは実感しております。館内を歩いていて、身体に“風”を感じることなく、自然界にいるような感覚です。昨年の夏場でも、建物の外壁が全面ガラスであるにもかかわらず、不快な感じは一切ありませんでした。『今後、不都合なことがございましたら、当社にとっても技術力の研鑽になりますので、些細なことであってもお申し付けいただきたい。』と、当社からお願いをさせていただきました。



新橋(汐留)～横浜間 日本最初の鉄道開通時の蒸気機関車

PROFILE

鉄道博物館 館長

大信田 尚樹氏

おおしだ まさき

1952年生まれ。旧国鉄時代は“運転畑”として活躍。JR時代は関連事業部門で、リゾート施設・大森駅ビル・宇都宮駅ビル、前職は埼玉新都市交通(ニューシャトル)の経営に携わる。

2014年6月着任。





人と空気と環境と



新日本空調株式会社

本レポートは、新日本空調グループにおけるCSR活動の取り組み状況について、ステークホルダーに対する説明責任を果たすことを主目的として、CSRに対する新日本空調の考え方、2014年度の実績等をCSR・広報委員会にて企画・編集したものです。

本レポートが、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーション促進の一助となることを願っております。

●本レポートの対象範囲

1. 対象期間: 本レポートに掲載の活動内容、データ集計の対象期間は2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)ですが、一部2015年度の内容も含まれます。
2. 対象組織: 新日本空調の国内事業所、新日空サービス株式会社および三つの海外現地法人におけるCSR活動を対象としています。
3. 対象読者: 新日本空調の企業活動を支えていただいているステークホルダー(顧客、株主、職員および家族、協力会社等)の皆様、特に株主・投資家および取引先企業の皆様への報告に力点を置いています。

●お問い合わせ先

新日本空調株式会社 経営企画本部
〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル
TEL: 03-3639-2701 FAX: 03-3639-2734

*新日本空調の企業情報につきましては、ホームページ(<http://www.snk.co.jp>)をご覧ください。

*アンケート用紙を添付しています。次回レポート作成時の参考とさせていただきますので、本レポートについて皆様の率直なご意見、アドバイスをお寄せくださいますようお願い申し上げます。

●次回発行予定

次回は2016年8月の発行を予定しています。

